

刊行にあたって

(財)新潟教育会

理事長 大 竹 肇

東京大学大学院教授の佐藤学氏は、「総合教育技術」(小学館)の2008年12月号で、次のように言っています。

2003年のTIMSS国際教育到達度評価の調査結果によれば、もはや「授業研究」も「校内研修」も日本の「お家芸」ではなくなっている。(中略)小学校教師においても日本は調査対象国の中で中位に過ぎず、中学校教師においては調査対象国の中で下位、高校教師では最下位に位置している。

日本の校内研修と授業研究は明治以来滞ることなく推進されてきて、それが日本人教師の「授業力」の質の高さを誇ってきたといえます。ところが、最近になってその「お家芸」が疎かになっているというのですから、子どもの学習意欲の低下や学力格差の拡大などを考え合わせると、教育にかかわる者にとっては由々しき問題です。

このことについて、新潟県はどうなっているのでしょうか。私個人としては、授業研究を重ねるごとに「授業を観る眼」と「授業を創る力」が備わってきたと思いますし、部活動終了後に自主的に集まって指導案検討を行っている教師集団の姿を何度も目にしていますので、本県では校内研修も授業研究も積極的に行われていると感じていました。

そして、そのことが今回の調査で証明されたのです。本県の小学校教師の多くは、校内研修と授業研究に積極的に参加して多くのことを学んで満足感と有用感を自覚しているのです。佐藤学氏の指摘は本県の小学校には当てはまらないことになり、私がこれまで感じていたことと同じであり、たいへん安堵した次第であります。

しかし、各学校及び教師一人一人の実態は異なります。ぜひ本調査報告書を活用され、自校の校内研修と授業研究の推進実態はどうか、自分の参加態度や参加意識はどうかを振り返っていただき、更なる「授業力」の向上につながることを願っております。

目 次

刊行にあたって	1
I 章 調査の概要	7
1 調査の趣旨	7
2 調査の内容と方法	7
3 調査の実際	8
4 備 考	8
II 章 調査の集計結果	11
1 設問ごとの集計結果	11
(1) 校内研修全般について	11
(2) 授業研究について	16
2 設問を関連づけた集計結果	22
(1) 校内研修全般について	22
(2) 授業研究について	26
III 章 調査結果の考察	33
1 設問ごとの考察	33
(1) 校内研修全般について	33
(2) 授業研究について	40

2 設問を関連づけた考察	47
(1) 校内研修全般について	47
(2) 授業研究について	51
IV章 校内研修への提言	57
1 校内研修全般について	57
(1) 4月に研修計画を立案する	57
(2) 多様な実技研修を組み込む	58
(3) 研修の進め方を工夫する	59
2 授業研究について	60
(1) 累積的に課題を設定する	60
(2) トライ&エラーを基本に据える	61
(3) 全員が授業評価について語る	62
V章 資 料	65
(1) アンケート調査用紙	65
(2) 回答用紙	71

I 章 調査の概要

◇ 校内研修とは

授業研究だけでなく、絵画や書写などの実技研修、特別支援教育研修、情報教育研修など、各学校において実施されるすべての研修のことである。

◇ 授業研究とは

「指導案検討－研究授業－授業分析」のサイクルで行う研修のことであるが、その一部を省略して実施する場合も含む。

I 章 調査の概要

1 調査の趣旨

学力向上，生徒指導，キャリア教育，特別支援教育等々，学校が抱える課題は数多くある。こうした現状の中であって，今，求められているのは，子ども一人一人に「生きる力」を培い，21世紀を切り開く心豊かでたくましい人間としての成長を促す教師力の向上である。

課題解決のために国及び県レベルにおいてさまざまな施策が講じられているが，教師力の向上の要は，学校教育課題を共有する職員集団が一体となり日常的に行うことのできる校内研修の充実にある。幸い，県内の各学校とも校内研修には精力的に取り組まれているが，さらに一層の充実を期すためには改善も必要である。

そこで，今回は校内研修に対する小学校教員の意識調査を実施し，各学校における校内研修改善のためのデータを提供するとともに，校内研修の現状を基に当教育研究所としての提言をまとめることにした。

なお，全教科担任制の小学校と教科担任制の中学校とでは校内研修の形態や内容等に違いがあることから，中学校教員に対する意識調査は次年度に別途実施することにした。

2 調査の内容と方法

(1) 調査の内容

- ①勤務校において校内研修として実施されているすべての研修を対象にして，その有用性や参加態度，満足感や改善点等に関する教員の意識について調査した。
- ②勤務校において校内研修として実施されている授業研究を対象にして，その有用性や参加態度，満足度や改善点等に関する教員の意識について調査した。

(2) 調査の方法

- ①県内小学校教員の中から無作為に抽出した教員の自宅にアンケート調査用紙を郵送し，回答を郵送するように依頼した。なお，回答にあたっては回答用紙及び返信用封筒とも学校名・氏名・住所の記載は不要とした。
- ②すべての設問は，選択肢の中から1つだけ選択するよう依頼した。なお，該

当する選択肢がない場合には「その他」を選択し、簡潔にその内容を記述するよう依頼した。

3 調査の実際

(1) 調査期間

調査の期間は、平成20年8月1日～平成20年8月31日である。

- ・平成20年7月30日にアンケート調査用紙を自宅宛に郵送した。
- ・平成20年8月31日までに回答用紙を当教育研究所宛に投函するよう依頼した。

(2) 依頼教員

依頼した教員は、上越・中越・下越・佐渡の小学校に勤務する校長・教頭を除く20代～50代の男女273人（6学級以上の241校）である。

(3) 回答教員

回答数は、依頼した273人の教員のうち158人（回収率57.8%）である。なお、集計は、年代・性別等の未記入の3人を除き155人で行った。

4 備 考

(1) 調査結果の分析について

本調査と比較可能な統計資料がないことから、分析にあたっては当教育研究所スタッフの常識的判断を基準にした。

(2) 報告書の活用について

- ①各学校とも学校独自に校内研修について反省・評価されていると思うが、Ⅱ章「調査の集計結果」を比較データとして活用いただきたい。
- ②Ⅲ章「調査結果の考察」及びⅣ章「校内研修への提言」を参考に自校の校内研修を見直し、より充実した校内研修の推進に努めていただきたい。
- ③Ⅴ章「資料」のアンケート調査用紙及び回答用紙は自由にコピーして使用してもよい。

Ⅱ章 調査の集計結果

- ◇全設問とも選択肢の中から1つ選択する単数回答方式である。
- ◇選択肢の「その他」を選択した場合は、その理由を簡単に記述するよう依頼した。なお、その記述内容については、紙面の関係で一部の紹介にとどめた。
- ◇「設問を関連づけた調査結果」については、Ⅲ章「調査結果の考察」で扱うもののみを掲載した。

Ⅱ章 調査の集計結果

1 設問ごとの集計結果

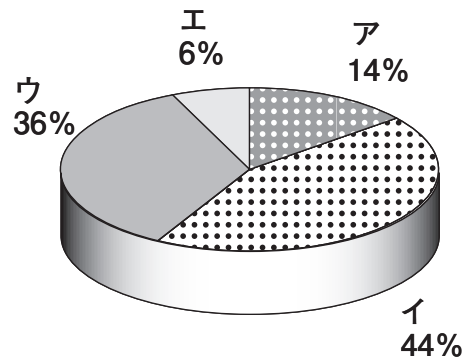
(1) 校内研修全般について

設問0-1 あなたの年代は？

- ア 20代
- イ 30代
- ウ 40代
- エ 50代

回答項目	20代	30代	40代	50代
回答者数	22	68	55	10

(人)

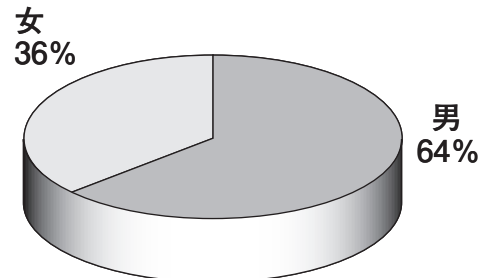


設問0-2 あなたの性別は？

- ア 男性
- イ 女性

回答項目	男性	女性
回答者数	99	56

(人)

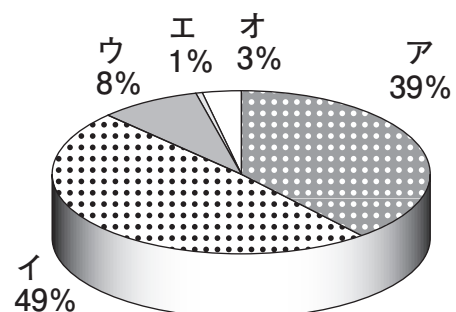


設問1 あなたの学校の校内研修は、あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

- ア かなり役立っている
- イ 少し役立っている
- ウ あまり役立っていない
- エ ほとんど役立っていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

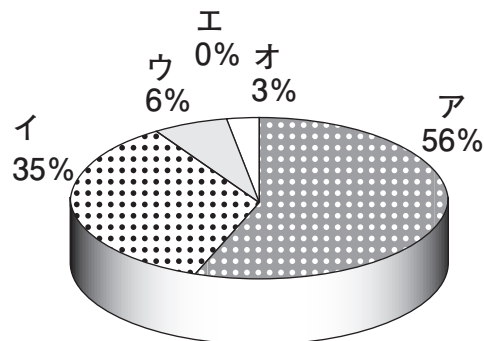
回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	60	76	13	1	5

(人)



設問2 あなたは、あなたの学校の校内研修に積極的に参加していますか？

- ア かなり積極的に参加している
- イ 少し積極的に参加している
- ウ あまり積極的に参加していない
- エ ほとんど積極的に参加していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

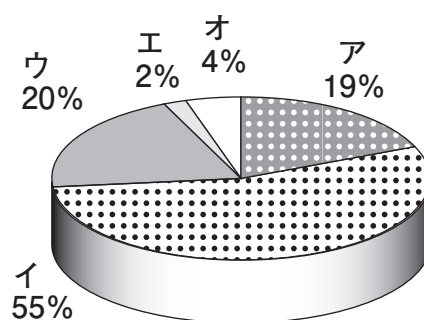


回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	87	54	10	0	4

(人)

設問3 あなたは、あなたの学校の校内研修について満足していますか？

- ア かなり満足している
- イ 少し満足している
- ウ あまり満足していない
- エ ほとんど満足していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

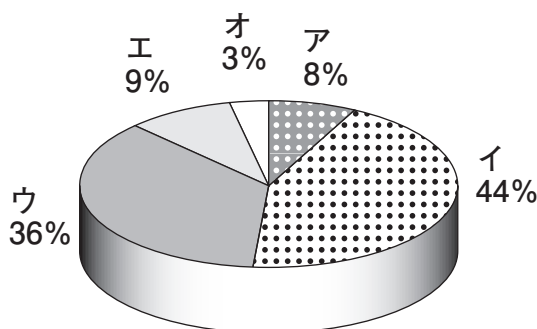


回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	29	85	31	3	7

(人)

設問4 あなたの学校の校内研修の内容や進め方は、あなたにとって負担になっていますか？

- ア かなり負担になっている
- イ 少し負担になっている
- ウ あまり負担になっていない
- エ ほとんど負担になっていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

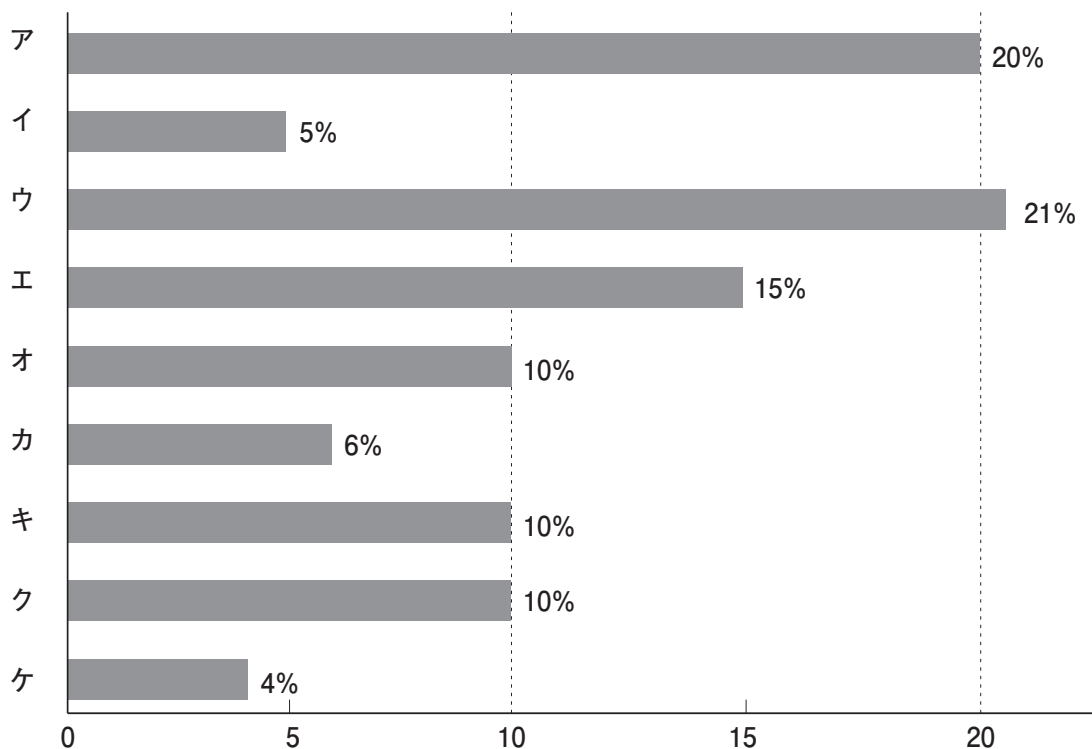


回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	12	68	56	14	5

(人)

設問5 あなたの学校の校内研修の内容について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

- ア 研修する内容が多過ぎるのでもっと精選する
- イ 研修する内容が限られているのでもっと広げる
- ウ 日々の実践に役立つ内容をもっと取り上げる
- エ 今日的な教育課題の解決に役立つ内容をもっと取り上げる
- オ 実技研修をもっと多くする
- カ 職員の意見や要望を積極的に取り入れる
- キ 改善すべきことはない
- ク この4月、転入したばかりで何ともいえない
- ケ その他（自由記述）



【自由記述】

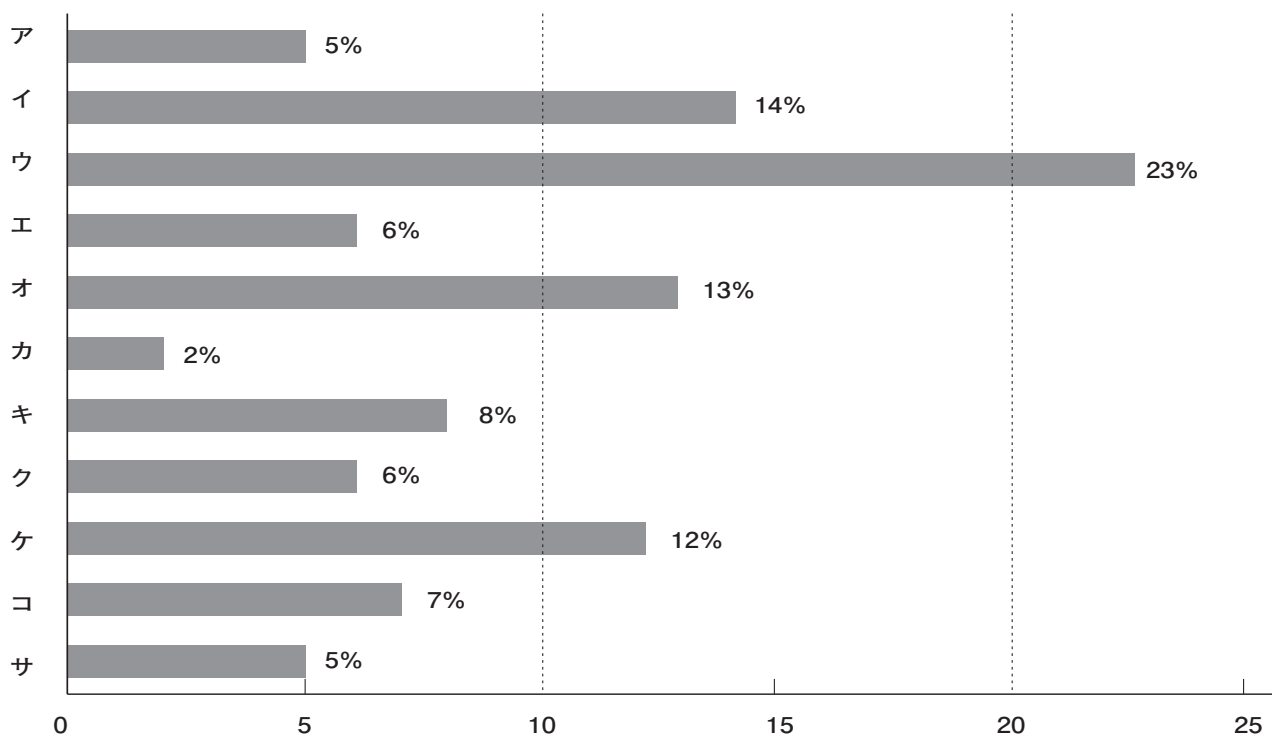
- ・一人一課題で授業をしているが、職員数が多くて自由に参観できない。その他の業務が多いため、研修だけに時間を割けないこと。
- ・他の職員の参加意欲が乏しいこと。
- ・もっと良い講師を招くこと。

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ
回答者数	31	7	32	23	16	10	15	15	6

(人)

設問6 あなたの学校の校内研修の進め方について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

- ア 研修の回数や時間を多くする
- イ 研修の回数や時間を少なくする
- ウ 外部講師を招聘して研修するようにする
- エ 一人一人の持ち味を生かし職員が講師になって研修するようにする
- オ ある時期に校内研修が集中しないようにする
- カ ある時期に校内研修を集中させる
- キ 職員間で厳しく研修し合うようにする
- ク 職員間で楽しく研修するようにする
- ケ 改善すべきことはない
- コ この4月、転入したばかりで何ともいえない
- サ その他（自由記述）



【自由記述】

- ・職員間の温度差が気になる。やる気のない人が何人もいる。校内の研修に対して自分を伸ばそうとする人が限られてきたこと。
- ・研究主任に一任するばかりでなく、校長・教頭などももっと関心をもって日常的に指導してほしいこと。
- ・研修にじっくり取り組めるような時間を確保すること。

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ
回答者数	8	22	35	9	20	3	12	9	19	11	7

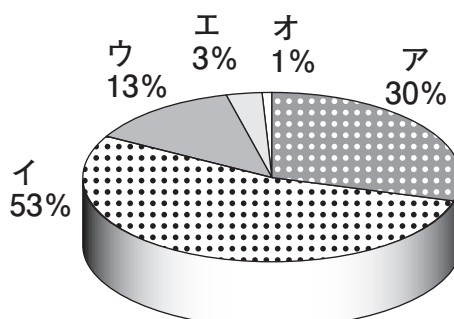
(人)

設問7 あなたの学校の校内研修の重点（研究テーマ）について、あなたは納得していますか？

- ア かなり納得している
- イ 少し納得している
- ウ あまり納得していない
- エ ほとんど納得していない
- オ 理解していないので何ともいえない

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	46	83	20	5	1

(人)

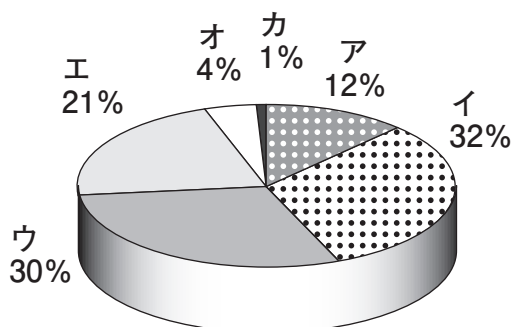


設問8 あなたの学校の保護者は、あなたを含め教員が自らの指導力を向上させるために校内で勉強会（校内研修会）を開いて研修していることを知っていますか？

- ア かなり知っている
- イ 少し知っている
- ウ あまり知らない
- エ ほとんど知らない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ	無答
回答者数	19	49	46	33	7	1

(人)

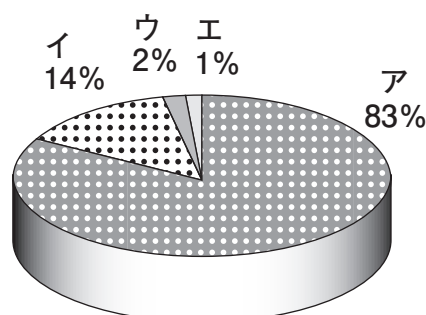


設問9 校内研修で取り上げる内容は多種多様です。あなたは校内研修の一つとして授業研究を取り入れることについてどう思いますか？

- ア 授業力を伸ばす上でかなり有益である
- イ 授業力を伸ばす上で少し有益である
- ウ 授業力を伸ばす上であまり有益ではない
- エ 授業力を伸ばす上でほとんど有益ではない

回答項目	ア	イ	ウ	エ
回答者数	129	21	3	2

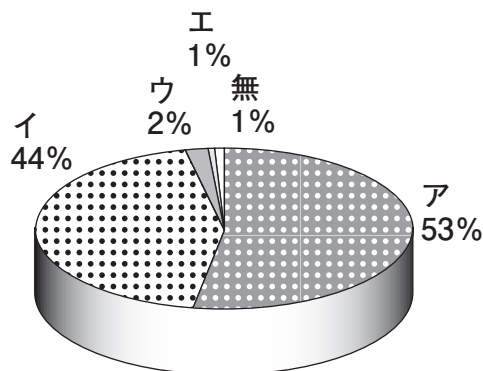
(人)



(2) 授業研究について

問10 多くの学校で授業研究を通した校内研修が行われています。あなたは校内研修における授業研究の位置づけ方についてどう思いますか？

- ア 授業研究を中核にして校内研修を進める方がよい
- イ 授業研究と他の内容とバランスを取りながら校内研修を進める方がよい
- ウ 授業研究は少なくし他の内容を中核にして校内研修を進める方がよい
- エ 授業研究はなくし他の内容のみで校内研修を進める方がよい

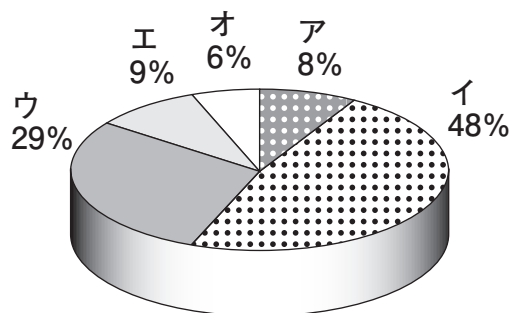


回答項目	ア	イ	ウ	エ	無答
回答者数	82	68	3	1	1

(人)

設問11 あなたの学校の授業研究は楽しいですか？

- ア かなり楽しい
- イ 少し楽しい
- ウ あまり楽しくない
- エ ほとんど楽しくない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

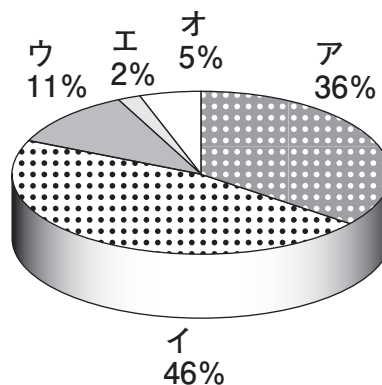


回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	13	74	45	14	9

(人)

設問12 あなたの学校の授業研究は、あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

- ア かなり役に立っている
- イ 少し役に立っている
- ウ あまり役に立っていない
- エ ほとんど役に立っていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない



回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	55	72	17	3	8

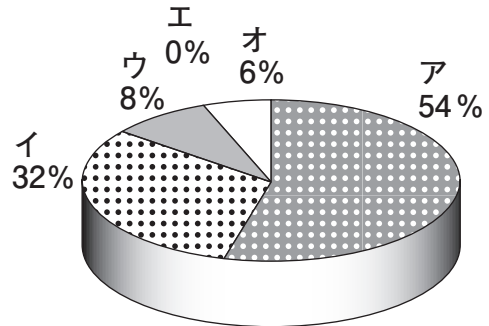
(人)

設問13 あなたは、あなたの学校の授業研究に積極的に参加していますか？

- ア かなり積極的に参加している
- イ 少し積極的に参加している
- ウ あまり積極的に参加していない
- エ ほとんど積極的に参加していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	84	49	13	0	9

(人)

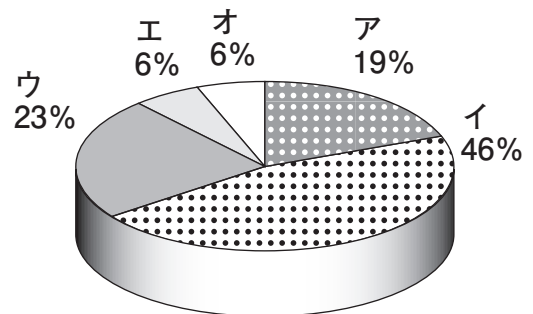


設問14 あなたは、あなたの学校の授業研究について満足していますか？

- ア かなり満足している
- イ 少し満足している
- ウ あまり満足していない
- エ ほとんど満足していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	30	71	36	9	9

(人)

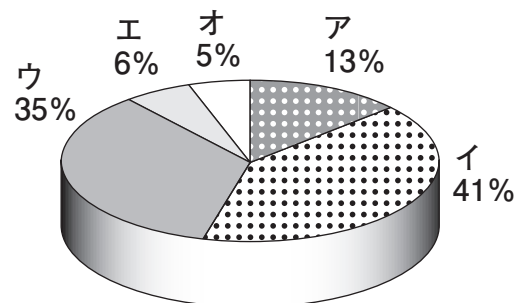


設問15 あなたの学校の授業研究は、あなたにとって負担になっていますか？

- ア かなり負担になっている
- イ 少し負担になっている
- ウ あまり負担になっていない
- エ ほとんど負担になっていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

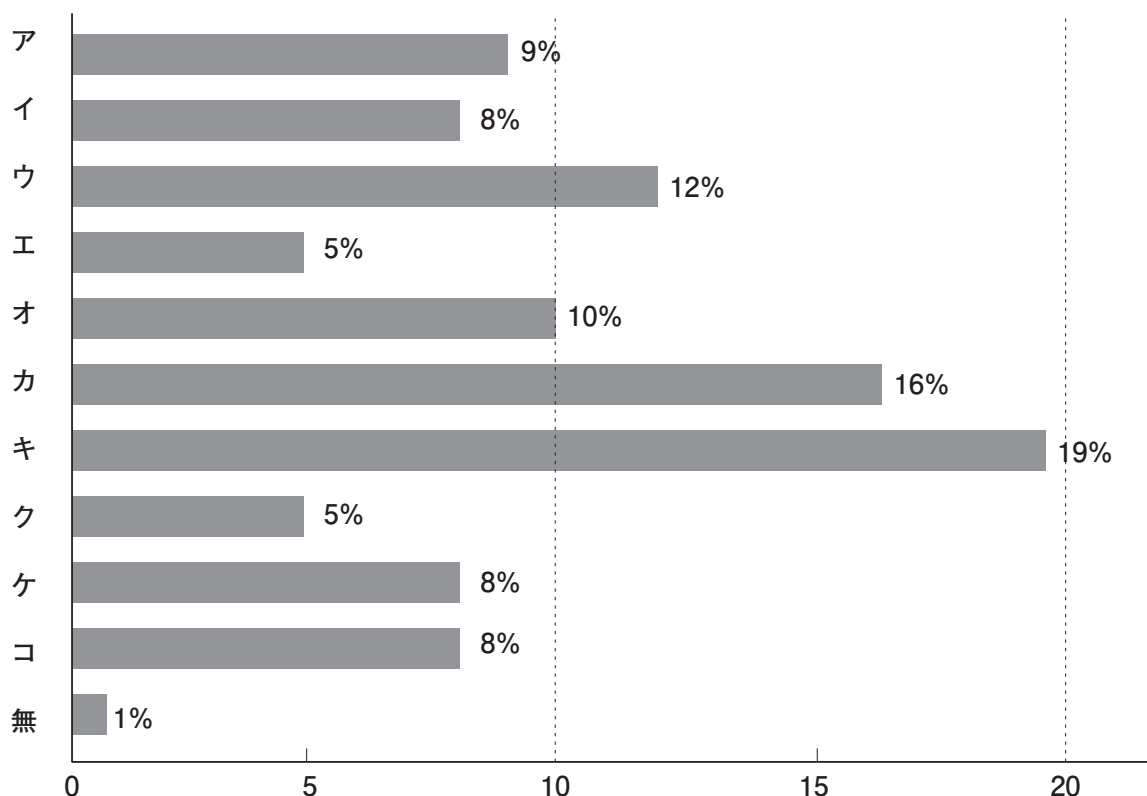
回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	21	63	54	9	8

(人)



問16 あなたの学校の授業研究について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

- ア 研究テーマにしばられず授業者の考えで自由に授業ができるようにする
- イ 授業者の考えを尊重して指導案の検討をする
- ウ 授業者任せにしないで全員で指導案づくりをする
- エ 授業を批判し合うだけの授業分析会をなくす
- オ 感想を述べ合うだけの授業分析会をなくす
- カ 外部講師を招き授業について多面的に考え合う授業分析会にする
- キ 全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする
- ク 授業研究にもっと真剣に取り組むようにする
- ケ 改善すべきことはない
- コ その他（自由記述）



【自由記述】

- ・全職員がかかわりやすいように分担などを工夫すること。
- ・普段の授業を見せ合い、お互いのよい部分を吸収したり、改善点を指摘したりすること。
- ・自分の研究の根拠を明らかにし、校内のテーマに自分の視点からアプローチし合い、妥当性を協議し合うこと。

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
回答者数	14	12	18	7	15	25	30	8	13	12	1

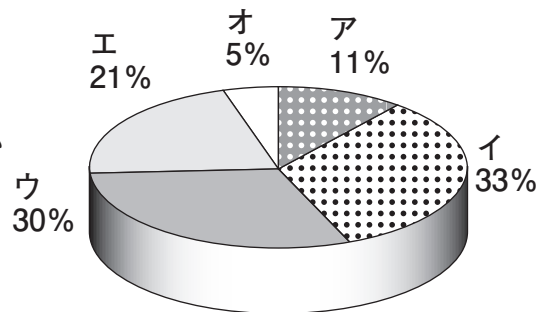
(人)

問17 あなたの学校の授業研究では、「板書の仕方」や「ノート指導」等の教育技術について話し合われますか？

- ア かなり話し合われている
- イ 少し話し合われている
- ウ あまり話し合われていない
- エ ほとんど話し合われていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ
回答者数	17	51	47	33	7

(人)

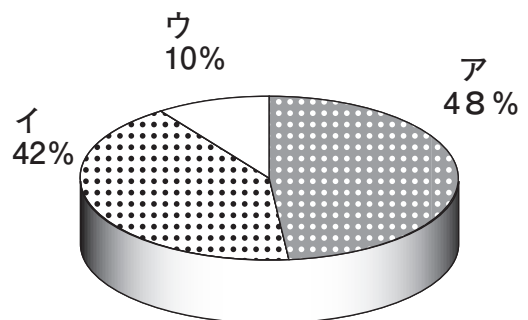


問18 あなたの学校では、授業研究のために作成した指導案や使用したワークシート等が次年度以降活用できるように学校として整理・保存されていますか？

- ア 整理・保存されている
- イ 整理・保存されていない
- ウ この4月、転入したばかりで何ともいえない

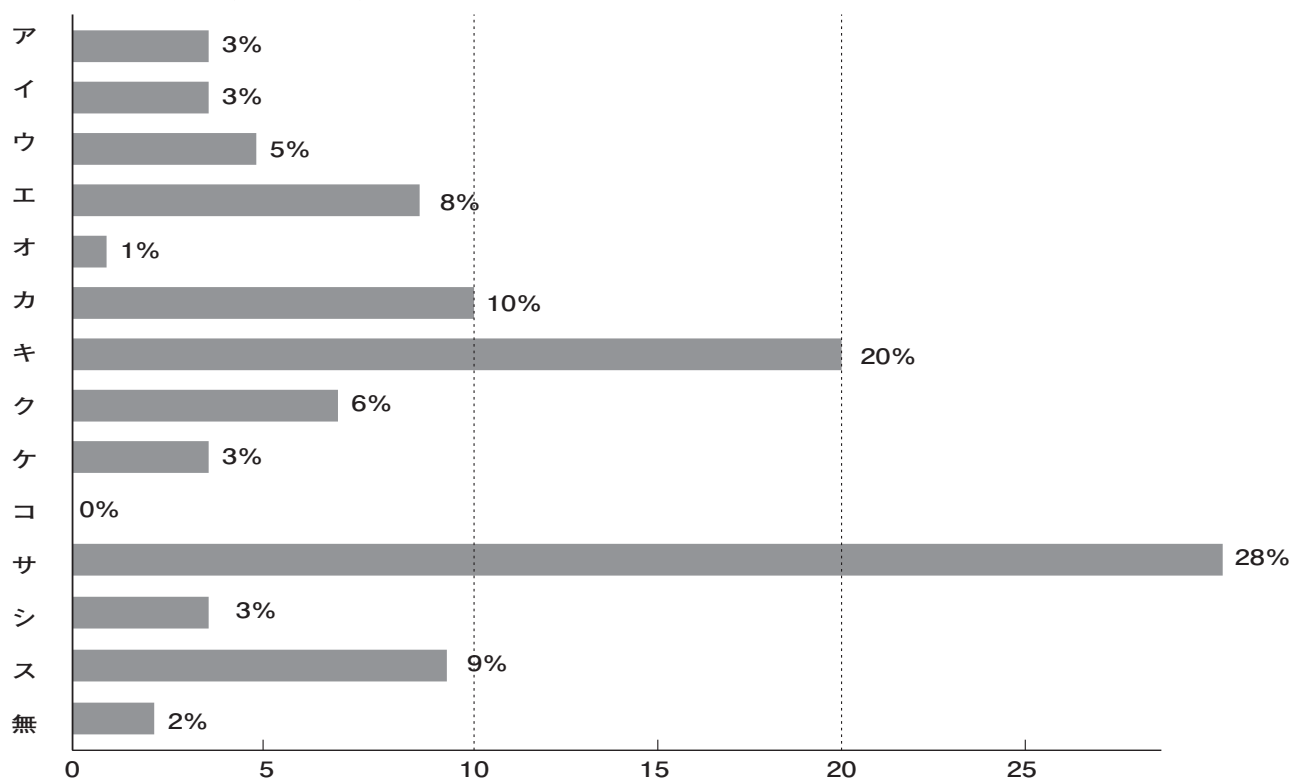
回答項目	ア	イ	ウ
回答者数	75	65	15

(人)



設問19 あなたが研究授業をしたとき、一番いやだったことはどんなことですか？

- ア 授業のよい所にはあまり触れず悪い所だけを厳しく指摘された
- イ 指導案検討のときは何も言わないでいて授業分析会でいろいろ批判された
- ウ 何回も指導案の書き直しをさせられた
- エ 授業の問題点の指摘だけで改善策が示されなかった
- オ 授業中のちょっとしたミスを仰々しく指摘された
- カ せっかく授業をしてもあまり意見が出なかった
- キ 指導案づくり・教材準備などでとても忙しかった
- ク 指導案がなかなか書けず困った
- ケ 授業研究がマンネリ化していて本気で研究授業に取り組んでも得るものがない
- コ 授業者のいい分を聞くことなく一方的に授業分析が進められた
- サ いやだったことはあまりない
- シ まだ研究授業をしたことがない
- ス その他（自由記述）



【自由記述】

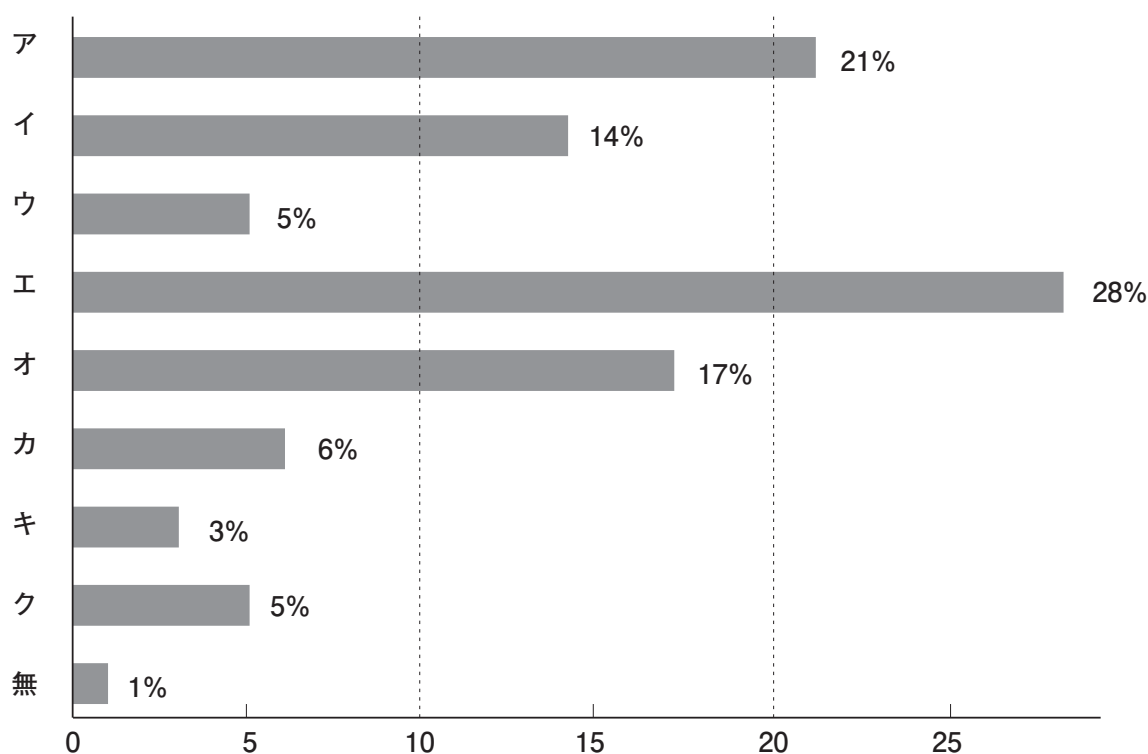
- ・自分の都合を無視され、準備期間もないまま急に授業研究をするように言われたこと。
- ・授業をしたが、外部の指導者から適切な指導がなかったこと。

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	無答
回答者数	4	5	7	13	1	15	31	10	4	0	43	5	14	3

(人)

設問20 あなたが研究授業をしたとき、一番うれしかったことはどんなことですか？

- ア 研究授業をするまでの努力や授業のよい所を認めてもらい励みになった
- イ 指導案づくりで困っているとき、親身になって手伝いや助言をもらった
- ウ 子どもが普段の授業以上によく動き、思い通りの授業ができた
- エ 研究授業を通して自分の指導力を高めることができた
- オ 研究授業をきっかけにして子どもが伸びた
- カ うれしかったことはあまりない
- キ まだ研究授業をしたことがない
- ク その他（自由記述）



【自由記述】

- ・指導者の先生が、私の足りないところを的確に指摘・指導してくれたこと。
- ・授業そのものについては問題点が多かったが、日頃の学校経営が順調であることや今後の課題をつかみ、前向きな気持ちになれたこと。
- ・授業準備をとおしてふだんよりもよく教材を吟味し、よく子どもたちを見つめ、子どもたちのことを考えていくことができたこと。

回答項目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	無答
回答者数	33	22	7	43	27	9	5	7	2

(人)

2 設問を関連づけた集計結果

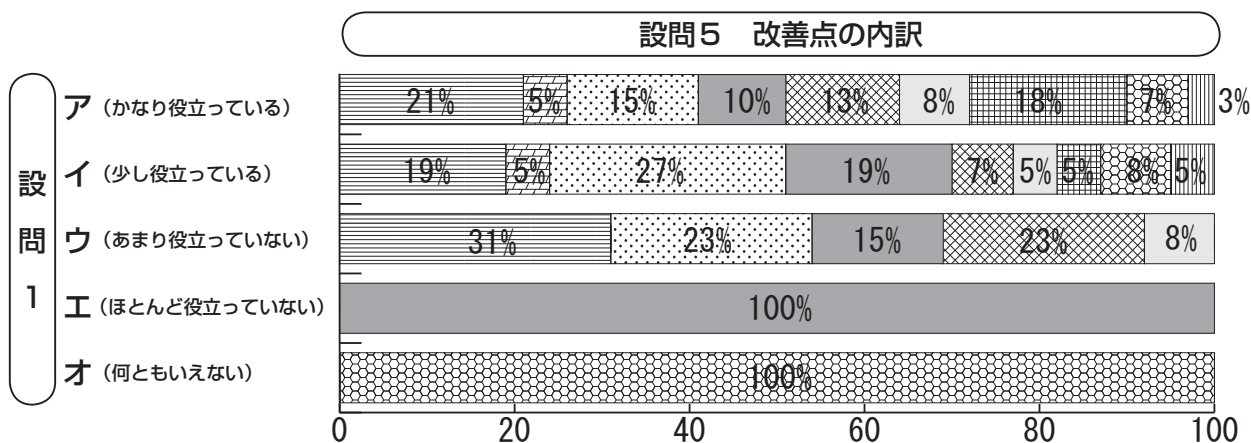
(1) 校内研修全般について

設問1 あなたの学校の校内研修は、あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

- ア かなり役立っている
- イ 少し役立っている
- ウ あまり役立っていない
- エ ほとんど役立っていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

設問5 あなたの学校の校内研修の内容について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

- ア 研修する内容が多過ぎるのでもっと精選する
- イ 研修する内容が限られているのでもっと広げる
- ウ 日々の実践に役立つ内容をもっと取り上げる
- エ 今日的な教育課題の解決に役立つ内容をもっと取り上げる
- オ 実技研修をもっと多くする
- カ 職員の意見や要望を積極的に取り入れる
- キ 改善すべきことはない
- ク この4月、転入したばかりで何ともいえない
- ケ その他（自由記述）



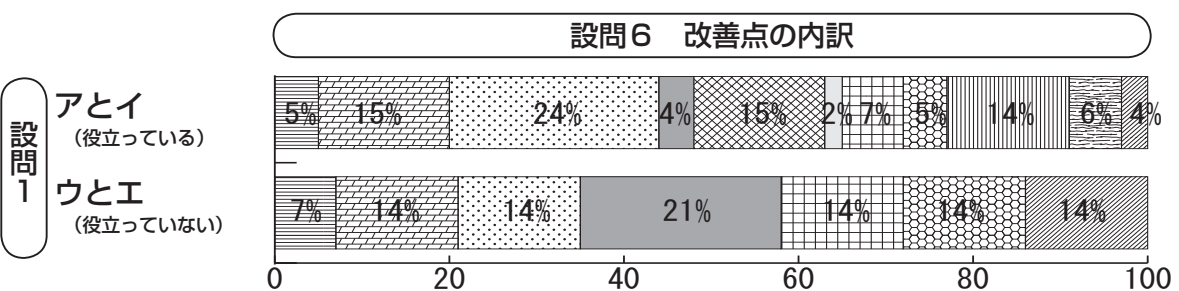
		設問5								
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ
設問1	ア	21%	5%	15%	10%	13%	8%	18%	7%	3%
	イ	19%	5%	27%	19%	7%	5%	5%	8%	5%
	ウ	31%	0%	23%	15%	23%	8%	0%	0%	0%
	エ	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%
	オ	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%

設問1 あなたの学校の校内研修は、あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

- ア かなり役立っている
- イ 少し役立っている
- ウ あまり役立っていない
- エ ほとんど役立っていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

設問6 あなたの学校の校内研修の進め方について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

- ア 研修の回数や時間を多くする
- イ 研修の回数や時間を少なくする
- ウ 外部講師を招聘して研修するようにする
- エ 一人一人の持ち味を生かし職員が講師になって研修するようにする
- オ ある時期に校内研修が集中しないようにする
- カ ある時期に校内研修を集中させる
- キ 職員間で厳しく研修し合うようにする
- ク 職員間で楽しく研修するようにする
- ケ 改善すべきことはない
- コ この4月、転入したばかりで何ともいえない
- サ その他（自由記述）



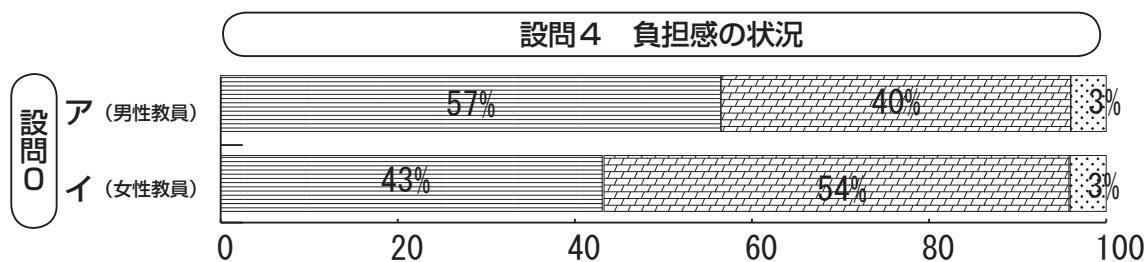
		設 問 6										
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ
設問1	アとイ	5%	15%	24%	4%	15%	2%	7%	5%	14%	6%	4%
	ウとエ	7%	14%	14%	21%	0%	0%	14%	14%	0%	0%	14%

設問0 あなたの性別は？

- ア 男性
- イ 女性

設問4 あなたの学校の校内研修の内容や進め方は、あなたにとって負担になっていますか？

- ア かなり負担になっている
- イ 少し負担になっている
- ウ あまり負担になっていない
- エ ほとんど負担になっていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない



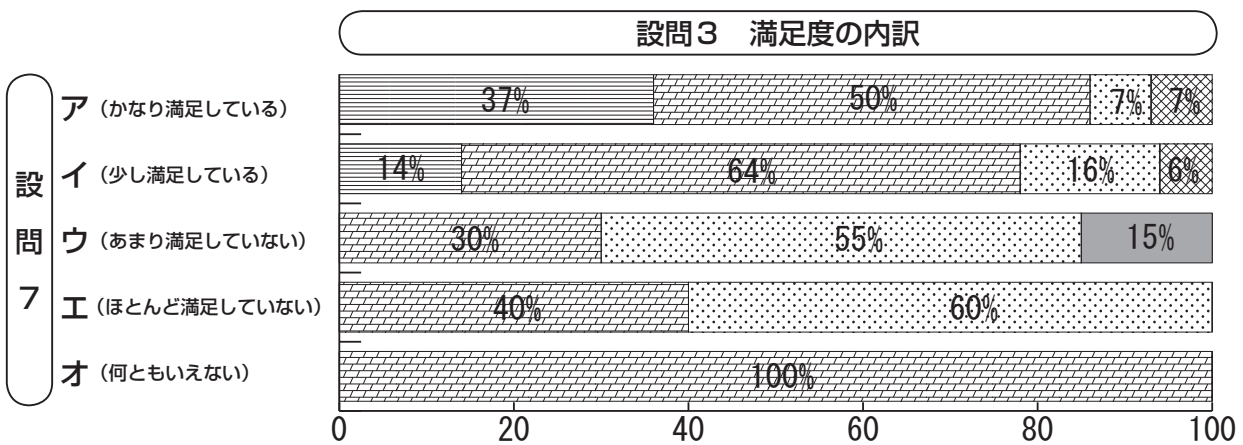
		設問4		
		アとイ	ウとエ	オ
設問0	ア	57%	40%	3%
	イ	43%	54%	4%

設問7 あなたの学校の校内研修の重点（研究テーマ）について、あなたは納得していますか？

- ア かなり納得している
- イ 少し納得している
- ウ あまり納得していない
- エ ほとんど納得していない
- オ 理解していないので何ともいえない

設問3 あなたは、あなたの学校の校内研修について満足していますか？

- ア かなり満足している
- イ 少し満足している
- ウ あまり満足していない
- エ ほとんど満足していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない



		設問3				
		ア	イ	ウ	エ	オ
設問7	ア	37%	50%	7%	0%	7%
	イ	14%	64%	16%	0%	6%
	ウ	0%	30%	55%	15%	0%
	エ	0%	40%	60%	0%	0%
	オ	0%	100%	0%	0%	0%

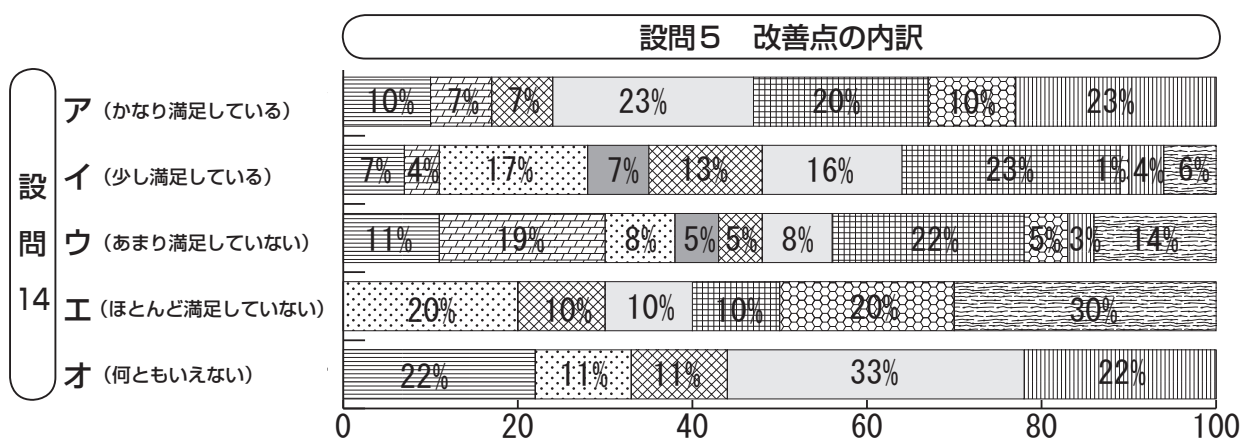
(2) 授業研究について

設問14 あなたは、あなたの学校の授業研究について満足していますか？

- ア かなり満足している
- イ 少し満足している
- ウ あまり満足していない
- エ ほとんど満足していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

設問16 あなたの学校の授業研究について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

- ア 研究テーマにしばられず授業者の考えで自由に授業ができるようにする
- イ 授業者の考えを尊重して指導案の検討をする
- ウ 授業者任せにしないで全員で指導案づくりをする
- エ 授業を批判し合うだけの授業分析会をなくす
- オ 感想を述べ合うだけの授業分析会をなくす
- カ 外部講師を招き授業について多面的に考え合う授業分析会にする
- キ 全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする
- ク 授業研究にもっと真剣に取り組むようにする
- ケ 改善すべきことはない
- コ その他（自由記述）



		設問16									
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
設問14	ア	10%	7%	0%	0%	7%	23%	20%	10%	23%	0%
	イ	7%	4%	17%	7%	13%	16%	23%	1%	4%	6%
	ウ	11%	19%	8%	5%	5%	8%	22%	5%	3%	14%
	エ	0%	0%	20%	0%	10%	10%	10%	20%	0%	30%
	オ	22%	0%	11%	0%	11%	33%	0%	0%	22%	0%

設問11 あなたの学校の授業研究は楽しいですか？

- ア かなり楽しい
- イ 少し楽しい
- ウ あまり楽しくない
- エ ほとんど楽しくない
- オ この4月，転入したばかりで何ともいえない

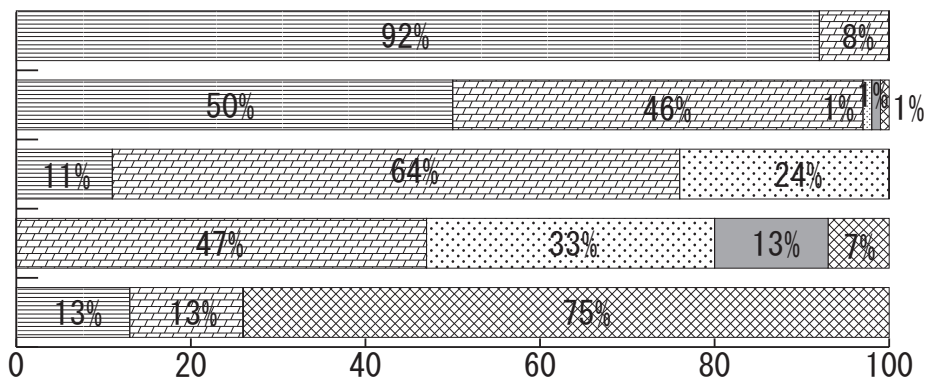
設問12 あなたの学校の授業研究は，あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

- ア かなり役に立っている
- イ 少し役に立っている
- ウ あまり役に立っていない
- エ ほとんど役に立っていない
- オ この4月，転入したばかりで何ともいえない

設問11

- ア (かなり楽しい)
- イ (少し楽しい)
- ウ (あまり楽しくない)
- エ (ほとんど楽しくない)
- オ (何ともいえない)

設問12 役立っているかどうかの状況



		設問12				
		ア	イ	ウ	エ	オ
設問11	ア	92%	8%	0%	0%	0%
	イ	50%	46%	1%	1%	1%
	ウ	11%	64%	24%	0%	0%
	エ	0%	47%	33%	13%	7%
	オ	13%	13%	0%	0%	75%

設問11 あなたの学校の授業研究は楽しいですか？

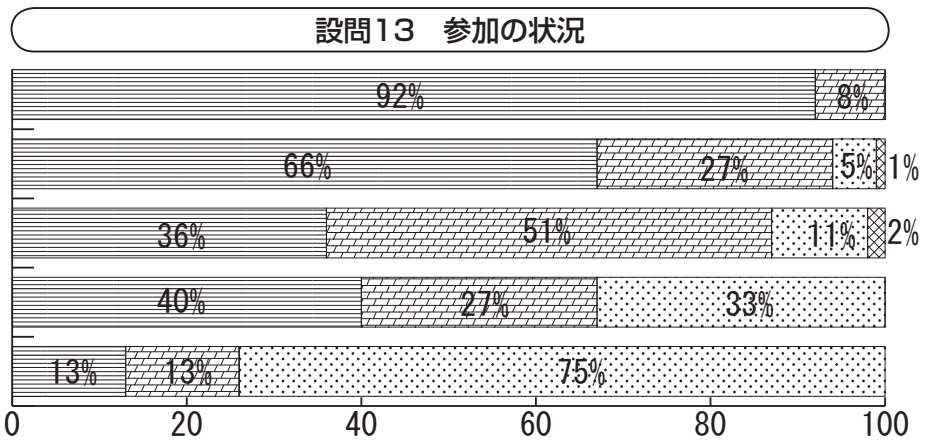
- ア かなり楽しい
- イ 少し楽しい
- ウ あまり楽しくない
- エ ほとんど楽しくない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

設問13 あなたは、あなたの学校の授業研究に積極的に参加していますか？

- ア かなり積極的に参加している
- イ 少し積極的に参加している
- ウ あまり積極的に参加していない
- エ ほとんど積極的に参加していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

設問11

- ア (かなり楽しい)
- イ (少し楽しい)
- ウ (あまり楽しくない)
- エ (ほとんど楽しくない)
- オ (何ともいえない)



		設問13				
		ア	イ	ウ	エ	オ
設問11	ア	92%	8%	0%	0%	0%
	イ	66%	27%	5%	0%	1%
	ウ	36%	51%	11%	0%	2%
	エ	40%	27%	33%	0%	0%
	オ	13%	13%	0%	0%	75%

設問14 あなたは、あなたの学校の授業研究について満足していますか？

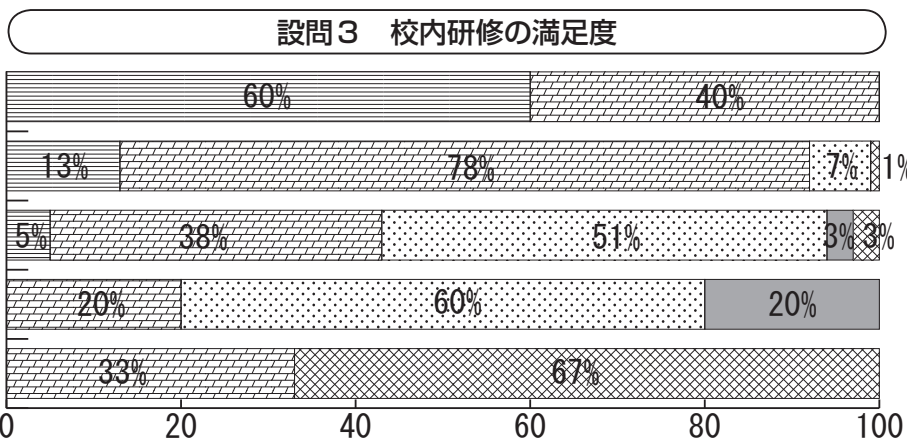
- ア かなり満足している
- イ 少し満足している
- ウ あまり満足していない
- エ ほとんど満足していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

設問3 あなたは、あなたの学校の校内研修について満足していますか？

- ア かなり満足している
- イ 少し満足している
- ウ あまり満足していない
- エ ほとんど満足していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

設問14

- ア (かなり満足している)
- イ (少し満足している)
- ウ (あまり満足していない)
- エ (ほとんど満足していない)
- オ (何ともいえない)



		設問3				
		ア	イ	ウ	エ	オ
設問14	ア	60%	40%	0%	0%	0%
	イ	13%	78%	7%	0%	1%
	ウ	5%	38%	51%	3%	3%
	エ	0%	20%	60%	20%	0%
	オ	0%	33%	0%	0%	67%

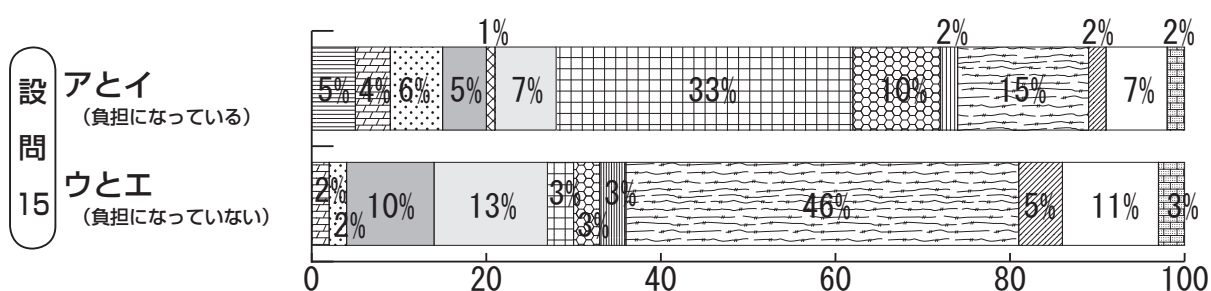
設問15 あなたの学校の授業研究は、あなたにとって負担になっていますか？

- ア かなり負担になっている
- イ 少し負担になっている
- ウ あまり負担になっていない
- エ ほとんど負担になっていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

設問19 あなたが研究授業をしたとき、一番いやだったことはどんなことですか？

- ア 授業のよい所にはあまり触れず悪い所だけを厳しく指摘された
- イ 指導案検討のときは何も言わないでいて授業分析会でいろいろ批判された
- ウ 何回も指導案の書き直しをさせられた
- エ 授業の問題点の指摘だけで改善策が示されなかった
- オ 授業中のちょっとしたミスを仰々しく指摘された
- カ せっかく授業をしてもあまり意見が出なかった
- キ 指導案づくり・教材準備などでとても忙しかった
- ク 指導案がなかなか書けず困った
- ケ 授業研究がマンネリ化していて本気で研究授業に取り組んでも得るものがない
- コ 授業者のいい分を聞くことなく一方的に授業分析が進められた
- サ いやだったことはあまりない
- シ まだ研究授業をしたことがない
- ス その他（自由記述）

設問19 負担になっているかどうかの状況



		設問19												
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス
設問15	アとイ	5%	4%	6%	5%	1%	7%	33%	10%	2%	15%	2%	7%	2%
	ウとエ	0%	2%	2%	10%	0%	13%	3%	3%	3%	46%	5%	11%	3%

Ⅲ章 調査結果の考察

- ◇考察にあたっては、各選択肢ごの百分率だけではなく、「かなり」と「少し」を肯定的な回答として、「あまり」と「ほとんど」を否定的な回答としてまとめたときの百分率も使っている。
- ◇各選択肢の回答状況を示す百分率は、すべて整数で表してある。
- ◇「設問を関連づけた考察」は、「設問ごとの考察」では読み取れない事柄について取り上げてある。

Ⅲ章 調査結果の考察

1 設問ごとの考察

(1) 校内研修全般について

【1について】 やっぱり役立つ校内研修

校内研修の有用性についての回答状況

- ・「かなり役立っている」は39%、「少し役立っている」は49%。「役立っている」という肯定的な回答は88%。
- ・「あまり役立っていない」は8%、「ほとんど役立っていない」は1%。「役立っていない」という否定的な回答は9%。

「かなり役立っている」と回答した教員は39%、「少し役立っている」と回答した教員は49%であり、合わせて「役立っている」と肯定的に回答した教員は88%である。校内研修が教員一人一人の指導力の向上に大いに役立っていることを裏付ける高い数値である。

同僚性（注）に基づく校内研修の充実が一層求められる今日、本県の校内研修は十分に機能していると言える。

（注） 同僚性とは、同じ職場の者が対等な立場で相互に切磋琢磨し合う関係のことである。

【2について】 意欲が高い校内研修

校内研修の参加態度についての回答状況

- ・「かなり積極的に参加している」は56%、「少し積極的に参加している」は35%。「積極的に参加している」という肯定的な回答は91%。
- ・「あまり積極的に参加していない」は6%、「ほとんど積極的に参加していない」は0%。「積極的に参加していない」という否定的な回答は6%。

「積極的に参加している」と肯定的に回答した教員は91%であり、きわめて高い比率である。これまで、「新潟県の教員は研究熱心である」と言われてきたが、データを通してそれが裏付けられたと言える。

校内研修が所期の目的を達成するためには、何よりも教員一人一人の積極的な参加が前提となる。義務的にしぶしぶ参加しているようでは、校内研修の実を上げることはできない。参加態度は研修意欲の表れであり、本県の場合、校内研修に対する意欲・態度は好ましい状態にある。

【3について】 満足感もあるが願いも大きい校内研修

校内研修に対する満足度についての回答状況

- ・「かなり満足している」は19%、「少し満足している」は55%。「満足している」という肯定的な回答は74%。
- ・「あまり満足していない」は20%、「ほとんど満足していない」は2%。「満足していない」という否定的な回答は22%。

「満足している」と肯定的に回答した教員は74%であり、4人のうち3人の割合である。校内研修の有用性についての肯定的な回答（88%）より少し低くなるものの、まずまずの数値である。

一方、「満足していない」と否定的に回答した教員は22%である。校内研修の有用性について否定的な回答（9%）よりもかなり上回っており、満足度が相対的に低くなっている。このことは、現状の校内研修はそれなりに指導力の向上に役立っているものの、多くの教員がより質の高い研修を求めていることを示している。

【4について】 思いのほか負担感の少ない校内研修

校内研修の負担感についての回答状況

- ・「かなり負担になっている」は8%、「少し負担になっている」は44%。「負担になっている」という回答は52%。
- ・「あまり負担になっていない」は36%、「ほとんど負担になっていない」は9%。「負担になっていない」という回答は45%。

校内研修について「負担になっている」と回答した教員は52%、「負担になっていない」と回答した教員は45%である。負担を感じるか否かについては、回答が相半ばしている。

校内研修は、日々の実践に役立つ指導法を習得したり、今日的な課題に正対した教育実践の在り方を考えたりする教師修行の場である。こうした特質を考えると、負担感があってもおかしくない。それにもかかわらず「負担になっていない」と回答した教員は45%であり、思いのほか多い。このことは、積極的に校内研修を進めようとする教員が多くいることを示している。

一方、回答した教員の半数が負担に感じているのも事実である。負担感は何としても軽減すべきことであるが、「校内研修を縮小すれば軽減できる」と短絡的に結論づけることは適当ではない。教員の責務及び校内研修の特質を十分踏まえた上で、改善策を講じることが何よりも大切である。研修内容の重点化や効率的な運営など校内研修の一層の充実を図る取組の中で、負担感の軽減を図っていくことが求められる。

【5について】 「役立つ」と「精選する」がキーワードの校内研修

校内研修の内容上の改善点についての回答状況（回答の上位）

- ・ベスト1は「日々の実践に役立つ内容をもっと取り上げる」の21%。
- ・ベスト2は「研修する内容が多すぎるのもっと精選する」の20%。
- ・ベスト3は「今日的な教育課題の解決に役立つ内容をもっと取り上げる」の15%。
- ・ベスト4は「職員の意見や要望を積極的に取り入れる」の10%。

改善点のベスト1は、「日々の実践に役立つ内容をもっと取り上げる」である。また、ベスト3は、「今日的な教育課題の解決に役立つ内容をもっと取り上げる」である。

この2つは社会の変化や教育の動向を敏感に反映したものであり、緊急性の高い改善点と言える。というのは、社会や家庭の急激な変化に伴い、子どもの倫理観や生活態度が大きく変わり、学習指導・生徒指導両面においてこれまでになかった困難さが生じているからである。また、キャリア教育、外国語教育など、新しい教育課題に対応した確かな教育活動が求められているからである。校内研修を見直す視点として、「役立つ」は重要である。

改善点のベスト2は、「研修する内容が多すぎるのもっと精選する」である。校内研修で取り扱う内容は多岐にわたり、どんどん広がるばかりである。際限のない研

修内容の量的拡大を防ぐ対策が求められる。子どもと向かい合う時間を確保するため、業務のスリム化が求められる今日、「精選」もまた緊急性の高い改善点と言える。

【6について】 「質」と「計画性」がキーワードの校内研修

校内研修の運営上の改善点についての回答状況（回答の上位）

- ・ベスト1は「外部講師を招聘して研修するようにする」の23%。
- ・ベスト2は「研修の回数や時間を少なくする」の14%。
- ・ベスト3は「ある時期に校内研修が集中しないようにする」の13%。
- ・ベスト4は「改善すべきことはない」の12%。
- ・ベスト5は「職員間で厳しく研修し合うようにする」の8%。

運営面の改善点ベスト1は、「外部講師を招聘して研修するようにする」である。校内で実施するだけでもかなりの大変さがあるのに、外部講師を招けば事前の準備や当日の運営もきちんとしなければならず、ますます大変になる。にもかかわらず、外部講師を招聘した校内研修が改善点のトップである。予想もしなかった意外な結果である。

また、ベスト5は、「職員間で厳しく研修し合うようにする」である。職員間で切磋琢磨し合うはずの校内研修にもかかわらず、「職員間で厳しく研修し合うようにする」に8%もの回答があったことも意外である。

校内研修は、いつも顔を合わせながら仕事をする教員同士で行うものである。この校内研修は、他の研修にはない長所がある反面、注意すべき短所も併せもっている。

たとえば、教員同士の人間関係を維持するために、言うべきことを言わなかったり、低いレベルの目標で満足したりすることなどがその例である。また、いつも同じメンバーで研修することから、どうしても物の見方・考え方が固定化したり狭くなったりしやすい。

外部講師の招聘や職員間の厳しい研修が改善点の上位にあがるのは、現状の校内研修にはこうした短所といえる問題点が見られることを示している。志を高くして厳しく鍛え合い、発想を柔軟にして多面的に考え合う、質の高い校内研修の推進が求められる。

また、校内研修は、年間の教育計画に即して無理なく計画的に進めることが大切である。改善点のベスト3内に「研修の回数や時間を少なくする」「ある時期に校内研修が集中しないようにする」の2つがあがるのは、校内研修の年間計画に問題がある

ことを示している。必要な研修を適切な時期に配置し、無理なく実施できる研修計画の立案が求められる。

【設問7について】 目標を共有して進められている校内研修

研究テーマの納得度についての回答状況

- ・「かなり納得している」は30%、「少し納得している」は53%。「納得している」という肯定的な回答は83%。
- ・「あまり納得していない」は13%、「ほとんど納得していない」は3%。「納得していない」という否定的な回答は16%。

研究テーマについて「納得している」と肯定的に回答した教員は83%であり、かなり高率である。この数値は、校内研修の方向や重点が共通理解の基に進められていることを示している。大勢として好ましい状況にあると言える。

一方、16%の教員が「納得していない」と否定的に回答している。校内研修が組織的に、共同的に行われることを考えると、研究テーマについて納得していない教員がいることは残念なことである。目標の共有化が不十分であれば、共同研究である校内研修にとってマイナスである。研究テーマが自由闊達な議論を経た中で、総意として設定されたのかどうか等、設定過程を見直すことが求められる。

【設問8について】 情報発信が必要な校内研修

保護者の周知度についての回答状況

- ・「かなり知っている」は12%、「少し知っている」は32%。「知っている」という肯定的な回答は44%。
- ・「あまり知らない」は30%、「ほとんど知らない」は21%。「知らない」という否定的な回答は51%。

校内研修について、保護者は「知っている」と肯定的に回答した教員は44%、「知らない」と否定的に回答した教員は51%である。指導力の向上を目指して真剣に研修する教員の取組について、半数以上の保護者が知らないというのは、あまり好ましい

状態ではない。

今、学校に強く求められているのは、教育活動に関する情報を積極的に公開し、保護者・地域住民の学校理解を深め、信頼感を醸成・強化していくことである。また、保護者・地域住民は、今も昔も変わらず「いい先生」に子どもを託したいと願っており、教師の指導力については敏感である。

こうした情報公開の趣旨や保護者・地域住民の願いを考えると、「いい先生」を目指し、積極的に研修に取り組んでいることは発信すべき情報の一つであり、内容によっては保護者・地域住民に知らせることが有益なことも多い。たとえば、いじめが問題になっている場合、いじめに対する学校の方針や対応策の説明は当然必要であるが、教員がいじめ問題に関してどのような研修を積み重ねているのかの情報を発信すれば、より説得力をもつようになる。

発信する内容については個々に検討することが必要であるが、校内研修についても他の教育活動同様に情報発信していくことが求められる。

【設問9について】 圧倒的に支持されている授業研究を取り入れた校内研修

授業研究を取り入れた校内研修の是非についての回答状況


- ・「授業力を伸ばす上でかなり有益である」は83%、「授業力を伸ばす上で少し有益である」は14%。「授業力を伸ばす上で有益である」という肯定的な回答は97%。
- ・「授業力を伸ばす上であまり有益ではない」は2%、「授業力を伸ばす上でほとんど有益ではない」は1%。「授業力を伸ばす上で有益ではない」という否定的な回答は3%。

「授業力を伸ばす上で有益である」と肯定的に回答した教員は97%である。驚くほど高い数値であり、校内研修の中に授業研究を取り入れることは、圧倒的に支持されていることがうかがえる。

教員に求められ資質は、実践力としての指導力である。子どもの実態把握と教材分析を基に指導計画を立て、適切な教材と発問を位置づけた授業過程を組み、子どもの追求を促し発展させるためにさまざまな教育技術を駆使して授業を展開することが求められる。

こうした実践的な指導力を身につけるには、授業研究にまさる研修方法はない。「授業の事実」に基づいた授業の批判的検討や実践の深い内省と洞察を積み重ねていく授

業研究こそ、指導力アップの王道である。授業研究が圧倒的に支持されるのは、多くの教員がそのことを肌で感じているからであろう。

【設問10について】  授業研究の位置づけに考えのズレが見られる校内研修

授業研究の位置づけ方についての回答状況

- ・「授業研究を中核にして校内研修を進める」は53%。
- ・「授業研究と他の内容とのバランスをとって校内研修を進める」は44%。
- ・「授業研究を少なくして他の内容を中核にして校内研修を進める」は2%。
- ・「授業研究はなくして他の内容のみで校内研修を進める」は1%。

「授業研究を中核にして校内研修を進める」と回答した教員は53%、「授業研究と他の内容とのバランスをとって校内研修を進める」と回答した教員は47%である。[設問9]の考察で述べた通り、授業研究の有用性については意見が一致しているものの、その位置づけ方についてはかなり意見が分かれている。

新潟県においては、校内研修と言えば、すぐに授業研究が頭に浮かぶほど授業研究中心の校内研修が一般的である。これは、教師の指導力の中核をなすものは授業力であり、その授業力は授業研究の中でこそ鍛えられるという考え方が脈々と引き継がれているからであろう。

そうした中であって、教員の半数近くが「授業研究と他の内容とのバランスをとって校内研修を進める」と回答している。これは、授業力を高めると同時に、多様化している教育課題に適切に対応できる力を身に付けたいという教員がかなりいることを示している。

校内研修全体の中で、学習指導や生徒指導、識見を高める研修や実技研修、今日的な教育課題や古くから重要視されている学級経営等々に割いている時間的な配分を見直すことが求められる。

(2) 授業研究について

【設問11について】 教師という仕事の楽しさを知る授業研究

授業研究の楽しさについての回答状況

- ・「かなり楽しい」は8%、「少し楽しい」は48%。「楽しい」という肯定的な回答は56%。
- ・「あまり楽しくない」は29%、「ほとんど楽しくない」は9%。「楽しくない」という否定的な回答は38%。

教師修行として最も厳しい授業研究について、「楽しい」と肯定的に回答した教員は56%であり、授業研究に楽しさを感じている教員が過半数を超える。実際の授業に即して真剣に考え合う充実感、より質の高い授業を目指す創造的な活動の喜び、そして、自らの指導力の向上を実感できることなどが楽しいと感じる大きな要因と考えられる。

一方、「楽しくない」と否定的に回答した教員も38%いる。最近、仕事量の軽減や能率的な運営を目指して指導案の簡略化や、授業分析会に代えて授業のコメントを記したカードを渡すなど方法面からの改善がなされている。しかし、この数値は、こうした改善では不十分であることを示している。あくまでも授業研究の楽しさは、指導力の向上に資する授業研究の内実から生まれる。楽しくてためになる授業研究の具現が求められる。

【設問12について】 指導力向上の核となる授業研究

授業研究の有用性についての回答状況

- ・「かなり役立っている」は36%、「少し役立っている」は46%。「役立っている」という肯定的な回答は82%。
- ・「あまり役立っていない」は11%、「ほとんど役立っていない」は2%。「役立っていない」という否定的な回答は13%。

授業研究について、82%の教員が「役立っている」と肯定的に回答している。校内研修全般については88%の教員が「役立っている」と肯定的に回答しているが、これ

と比較してみても遜色ない高い比率である。

多数の子どもを相手に巧みに授業を展開する日本の教員の指導力は、世界的に高い評価を得ている。その指導力の源と言えば、日常的に、継続的に行われている授業研究にある。82%もの教員が「役立っている」と回答している事実が、そのことを示している。

【設問13について】 一人一人が真剣に取り組む授業研究

授業研究への参加態度についての回答状況

- ・「かなり積極的に参加している」は54%、「少し積極的に参加している」は32%。
「積極的に参加している」という肯定的な回答は86%。
- ・「あまり積極的に参加していない」は8%、「ほとんど積極的に参加していない」は0%。「積極的に参加していない」という否定的な回答は8%。

「積極的に参加している」と肯定的に回答した教員は86%、「積極的に参加していない」と否定的に回答した教員はわずか8%である。

授業研究は、「授業の事実」の客観的な分析によって授業過程の組み方、教師の指導の在り方、意欲的な追求を促す教材の在り方等を明らかにし、よりよい授業を総合的に探求する営みである。その授業研究に、86%もの教員が「積極的に参加している」と回答している。校内研修全般では92%の教員が「積極的に参加している」と回答しているが、これを少し下回るものかなり高い比率である。これは、本県の教員は「授業の事実」を基に実証的に指導力の在り方を究明し、その向上に努めていることを示している。

【設問14について】 さらに満足度を高めたい授業研究

授業研究に対する満足度についての回答状況

- ・「かなり満足している」は19%、「少し満足している」は46%。「満足している」という肯定的な回答は65%。
- ・「あまり満足していない」は23%、「ほとんど満足していない」は6%。「満足していない」という否定的な回答は29%。

授業研究に「満足している」と肯定的に回答した教員は65%である。まずまずの数値と言える。しかし、問題は「設問13」において、86%もの教員が「積極的に参加している」と回答しているにもかかわらず、「満足していない」と否定的に回答した教員が29%もいることである。このことは、授業研究には積極的に参加するが、その満足度はやや低いということを示している。

満足度が低くなる要因としては、自らの指導力の向上が実感できない、相互に触発し合う話し合いがなされない、研究テーマにしばられるあまり実態とかけ離れた授業をせざるを得ない等々が考えられる。授業研究をするのは、あくまでも授業改善のためである。この原点を見失うことなく、一人一人の教員の期待や願いに応える授業研究の推進が求められる。

【設問15について】 負担感が増大するとは限らない授業研究

授業研究の負担感についての回答状況

- ・「かなり負担になっている」は13%、「少し負担になっている」は41%。「負担になっている」という回答は54%。
- ・「あまり負担になっていない」は35%、「ほとんど負担になっていない」は6%。「負担になっていない」という回答は41%。

授業研究の負担感はかなり大きいのではないかという調査前の予想に反して、校内研修全般の場合と大差がない。

- ・「負担である」→授業研究の場合は54%、校内研修全般の場合は52%
- ・「負担ではない」→授業研究の場合は41%、校内研修全般の場合は45%

長期間にわたりかなりの仕事量を伴う授業研究であるが、「かなり負担になっている」と回答した教員は13%に過ぎず、大多数の教員が指導力の向上を目指して意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

授業研究は、教師の本務である授業の指導力向上を目指すものであり、もともと負担感を伴う教師修行である。楽をして、手軽に進められるものではない。こうした授業研究の特質を考えると、負担感を感じている教員が過半数を超えているからといって、授業研究そのものを否定的に見なすことは早計である。問題があるとすれば、それは仕事量が常識的な範囲を超えていたり、授業を通して切磋琢磨し合う厳しさ以外の要因で負担感が生じている場合である。

充実感があれば負担感にはならない。充実感がなくて徒労感のみ残るとき、負担感

が生まれる。授業研究を通して一人一人が充実感を味わっているのか。負担感の軽減問題を考えるときには、まずこのことを問うことから始めたいものである。

【設問16について】  主体的な参画と批判的な精神が求められる授業研究

授業研究の改善点についての回答状況（回答の上位）


- ・ベスト1は「全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする」の19%。
- ・ベスト2は「外部講師を招き多面的に考え合う授業分析会にする」の16%。
- ・ベスト3は「授業者任せにしないで全員で指導案づくりをする」の12%。
- ・ベスト4は「感想を述べ合うだけの授業分析会をなくす」の10%。
- ・ベスト5は「研究テーマにしばられず授業者の考えで自由に授業ができるようにする」の9%。

「全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする」が19%、「外部講師を招き多面的に考え合う授業分析会にする」が16%、「感想を述べ合うだけの授業分析会をなくす」が10%であり、合わせて45%の教員が授業分析会の在り方を問題にし、その改善を求めている。

授業研究のきめ手は、授業分析にある。「授業の事実」に裏付けられた厳しい授業評価を通して、授業構想や教師の指導等の適否が明らかになる。また、よりいよいよ授業をするための新たな知見も見い出すことができる。しかし、それは、一人一人が「主体的な参画」と「批判的な精神」で臨むことを前提にしている。回答状況を見ると、現状の授業研究にはこの2つに弱さがあることを示している。

ところで、[設問13]で、授業研究に積極的に参加していると回答した教員は86%にもものぼる。これほど積極的に参加している教員が多いにもかかわらず、授業分析会において主体的な参画が足りないことが問題になる。このことは、一見矛盾しているように見えるが、参加の仕方を考慮すると矛盾はしてはいない。というのは、一口に積極的な参加といっても、「他から一方的に学ぶことを第一義にした受け身的な参加」と、「他と触発し合って学ぶことを第一義にした能動的な参加」の2通りがあるからである。先に述べた「主体的な参画」とは後者を指している。

参加から参画へ。これがキーワードである。教員一人一人の授業研究への臨み方の態度変更が求められる。

【設問17について】  **教育技術についてあまり話し合えない授業研究**

授業研究において教育技術が話題になるかどうかについての回答状況

- ・「かなり話し合われる」は11%、「少し話し合われる」は33%。「話し合われる」という肯定的な回答は44%。
- ・「あまり話し合えない」は30%、「ほとんど話し合えない」は21%。「話し合えない」という否定的な回答は51%。

教育技術について、「話し合われる」と肯定的に回答した教員は44%であり、過半数を下回る。この数値は、各学校の教育研究の動向を色濃く反映しており、過半数を下回るのもうなずける。

というのは、最近の傾向として、「活用力を高める」「学び方を育てる」等々が研究課題として掲げられることが多い。授業研究では研究課題に迫る授業の具現を目指すことから、いきおい研究課題にかかわる問題に力点が置かれ、結果的に具体的な教育技術は軽視されるようになるからである。

教育技術の基礎・基本が身に付いていない若い教員が増えつつある現在、教育技術についてきちんと学ぶ機会を保障することが求められている。授業研究の中でさえ教育技術について学び合うことがないとしたら、どこで習得されるのか。教育技術について話し合えないということは、教師修行にとってマイナスである。

教育技術の軽視は、教師の専門性と日常実践の軽視にほかならない。授業研究を通して、教育技術の習得と継承を意図的に目指すことが求められる。

研修【設問18について】  **成果の活用が十分でない授業研究**

授業研究の指導資料の整理・保存についての回答状況

- ・「整理・保存されている」は48%。
- ・「整理・保存されていない」は42%。
- ・「わからない」は10%。

「整理・保存されている」が48%、「整理・保存されていない」が42%である。授業

研究用に作成した指導案，教材・教具，ワークシート等は，その学校の貴重な教育財産である。まして，「授業の事実」に即して分析し，改善案としてまとめ上げた修正指導案や教材等は，実践に裏付けられた教育計画である。にもかかわらず，授業研究の成果が活用できるように整理・保存されていない学校がかなりある。

授業研究は，教員一人一人の指導力を伸ばすと同時に，学校の教育計画を実践を通して練り上げ，蓄積していく場でもある。整理・保存する指導資料は既に手元にあり，その作業自体も特別難しいものではない。有効に活用する，実践に生かすという発想さえあれば，簡単にできることである。早急な改善が求められる。

【設問19について】 やってよかったという体験を大切にしたい研究授業

研究授業で一番いやだったことについての回答状況（回答の上位）

- ・ベスト1は「いやだったことはあまりない」の28%。
- ・ベスト2は「指導案づくり・教材準備などで忙しかった」の20%。
- ・ベスト3は「せっかく授業しても意見が出なかった」の10%。
- ・ベスト4は「その他（自由記述）」の9%。
（自由記述の主なもの）
 - ・自分の意図とは違う指導案に書き直しをさせられたこと。
 - ・準備期間のないまま急に授業をするように言われたこと。
 - ・子どもの事実に基づき，深く分析しないうちに会が終わること。
- ・ベスト5は「授業の問題点の指摘だけで改善点が示されなかった」の8%。

研究授業をして「いやだったことはあまりない」と回答した教員は28%であり，4人のうち1人の割合である。とかく研究授業については，指導案作成の大変さや授業について批評される等のマイナスイメージをもちやすいが，28%の教員にはそれがない。授業研究の担い手としての活躍が大いに期待できる。

一方，「指導案づくり等で忙しかった」が20%であり，多忙感をあげる教員もかなりの比率である。さらに，「せっかく授業をしても意見が出なかった」が10%，「授業の問題点の指摘だけで改善点が示されなかった」が8%，「その他」9%の自由記述にも「深く分析しないうちに会が終わる」等を指摘するものも多く，これらを合わせ授業分析会の在り方を問題点にあげる教員は30%を越える。このことは，「忙しさ」と「メリットがない」の2つが研究授業の問題点であることを示している。

授業研究の推進にあたっては、具体的な研修計画の早期立案と、焦点づけた協議及び成果と課題をきちんと導き出す生産的な話し合いをしていくことが求められる。

【設問20について】  教師としての喜びが凝縮している研究授業

研究授業で一番うれしかったことについての回答状況（回答の上位）

- ・ベスト1は「自分の指導力を高めることができた」の28%。
- ・ベスト2は「努力や授業のよい点を認めてもらい励みになった」の21%。
- ・ベスト3は「授業研究をきっかけにして子どもが伸びた」の17%。
- ・ベスト4は「指導案づくりで困っているとき、手伝いや助言をもらった」の14%。

研究授業は、もてる力を総動員して行うリサーチワークとしての授業である。授業者としての教材解釈、子どもの実態把握、授業過程の組み方、準備した教材や発問、子どもとの応答等々が「授業の事実」によって客観的に評価され、自分の取組の成果や授業の問題点が具体的に見えてくる。それだけに厳しい試練の場であるが、得ることも多い研修の機会である。また、教師という仕事の厳しさと喜びを知る貴重な機会でもある。

具体的に言えば、回答にあった「指導力を高めることができた」という充実感、「認めてもらい励みになった」という満足感、「子どもが伸びた」という達成感、「困っているとき手伝いや助言をもらった」という連帯感の4つの喜びである。授業研究は第一義的には指導力の向上を目指す営みであるが、それだけに終わってはならない。授業研究を通して教師の使命と教師集団の一員としての責任・役割の再認識を促し、真剣に、また情熱をもって子どもの指導にあたらうとする教師の心意気を高めることも大切である。

そうした意味から、「うれしかったことはあまりない」と回答した教員が6%もいることは残念なことである。研究授業の課題をどれだけ達成できたのか、授業の出来具合はどうだったのかという視点だけでなく、研究授業を通してその教員が何を獲得したのか、教員相互の支え合いがどう高まったのか等についても評価をしていくことが大切である。

2 設問を関連づけた考察

(1) 校内研修全般について

【設問1と設問5について】  実技研修を多く取り入れたい校内研修

② 「あまり役立っていない」と回答した教員は、内容的な改善として何を望んでいるか。

設問1 (有用性) \ 設問5 (内容的な改善点)	あまり役立っていない	かなり役立っている
内容の精選を	31%	21%
日々の実践に役立つ内容を	23%	15%
実技研修を多く	23%	13%
改善すべきことはない	0%	18%

注) 設問1：あなたの学校の校内研修は、あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか。

設問5：あなたの学校の校内研修の内容について、あなたが改善すべきだと一番考えていることは何ですか。

「あまり役立っていない」と回答した教員の求める改善点は、31%の「内容の精選を」をはじめ縦軸に示した3項目に集中しており、合わせると77%にも及ぶ。また、いずれも「かなり役立っている」と回答した教員の比率より大幅に上回っている。個々の改善点について見ると、「内容の精選を」が31%、「日々の実践に役立つ内容を」が23%、「実技研修を」が23%である。(注1)

「実技研修を多く」を改善点にあげる教員は、「あまり役立っていない」と回答した教員の23%にも及び、およそ4人に1人である。また、「かなり役立っている」と回答した教員の比率より10%も上回っている。このことは、実技研修を多く取り入れることによって、「あまり役立っていない」と回答した教員の有用感を高めることができることを示している。

校内研修にとって、実技研修は重要な内容の一つである。実技研修を取り入れると、とかく「講義中心になりがちな研修」から「体験や実習を中心にした研修」へと転換させることが可能になる。

注1) 「内容の精選を」と「日々の実践に役立つ内容を」については、前述の〔設問5〕の考察において取り上げているので割愛する。

【設問1と設問6について】  改善策の有効性を考えたい校内研修

② 「役立っている」と「役立っていない」と回答した教員が求める運営上の改善策は同じか。

設問1（有用性） 設問6（運営上の改善点）	役立っている	役立っていない
回数や時間を多くする	5%	7%
回数や時間を少なくする	15%	14%
外部講師を招聘する	24%	14%
職員が講師になって進める	4%	21%
職員間で厳しく研修し合う	7%	14%

註) 設問1：あなたの学校の校内研修は、あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか。

設問6：あなたの学校の校内研修の進め方について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか。


「役立っている」と「役立っていない」と回答した教員のあげる運営上の改善点は、校内研修の回数や時間についてはあまり違いがないにもかかわらず、「外部講師を招聘する」以下の3項目について大きく食い違っている。

「役立っている」と回答した教員のあげる改善ベスト1は、「外部講師を招聘する」であり、校内研修のレベルアップを図る改善策を求めている。これに対して「役立っていない」と回答した教員のあげる改善ベスト1は、「職員が講師になって進める」であり、校内研修の進め方の改善策を求めている。

この違いは、校内研修の改善に際しては個々の改善策の有効性を見極めることが大切であることを教えてくれる。

以下、「職員が講師になって進める」ように改善した場合を例にあげて具体的に述べる。この改善策を強く支持するのは、データからわかるように「役立っていない」と回答した教員であろう。しかし、「役立っている」と回答した教員は、この改善策は校内研修のレベルアップにつながらないことからあまり支持しないだろう。

校内研修の改善を進める際には、その改善策によって「何を変えようとしているのか」「何が変わるのか」を十分に検討し、効果を見極めた上で実施することが必要である。

【設問0と設問4について】  女性教員が大変さをはねのけてがんばる
校内研修

② 男性教員と女性教員とではどちらが負担感を多く感じているか。

	設問0（男女）	男性教員	女性教員
設問4（負担感）			
負担になっている		57%	43%
負担になっていない		40%	54%
転入したばかりでわからない		3%	4%

註) 設問0：あなたの性別についてお聞きします。


設問4：あなたの学校の校内研修の内容や進め方は、あなたにとって負担になっていますか。

「負担になっている」と回答した男性教員は57%、女性教員は43%であり、男性教員の方がより多く負担感を感じている。また、「負担になっていない」と回答した男性教員は40%、女性教員は54%であり、負担になっていない割合は女性教員の方が14ポイントも多い。調査前の予想と異なり、男性教員の方がより多く負担感を感じているという結果である。

女性教員の方が負担感が多いのではないかという予想は、家庭生活を営む上で男性教員が果たしている役割と女性教員が果たしている役割を考慮すると、妥当な予想であったと思う。なぜ予想と異なる結果になったのか。

理由は2つ考えられる。1つは、女性教員のがんばりである。家庭生活の中でより多くの仕事を果たしながら、少々の忙しさをものともせず教員としての仕事をきちんとしていく強さである。教員は、男女の区別なく子どもの指導に責任をもっている。家庭生活上で大変さがあろうと、教員としての責務を果たそうとする心意気が校内研修の立ち向かい方に表れていると言えるだろう。

2つめの理由は、校内研修を推進していく上での役割の違いである。事の是非はおくとして、一般的に、今なお男性教員が研修推進の担い手になっている学校が多い。こうした事情から、男性教員がより多く負担感を感じるようになっている原因と考えられる。

【設問7と設問3について】  研究テーマの理解度が満足度を左右する
校内研修

② 研究テーマの理解度は校内研修の満足度に影響するか。

設問3 (満足度) \ 設問7 (納得度)	かなり納得している	あまり納得していない
かなり満足している	37%	0%
少し満足している	50%	30%
あまり満足していない	7%	55%
ほとんど満足していない	0%	15%
理解していないので何とも言えない	7%	0%

註) 設問7：あなたの学校の校内研修の重点（研究テーマ）について、あなたは納得していますか。

設問3：あなたは、あなたの学校の校内研修について満足していますか。


研究テーマについて、「かなり納得している」教員の87%は、校内研修に「満足している」と肯定的に回答している。反対に、「あまり納得していない」教員の70%は、校内研修に「満足していない」と否定的に回答している。これは、研究テーマの納得度と校内研修の満足度との間には相関関係があることを示している。

これまで、研究テーマの共通理解の重要性については、校内研修を円滑に、あるいは、効率的に推進するという立場から論じられることが多かった。それはそれで重要な視点であるが、今後は、研究テーマの納得度は校内研修の満足度に大きく影響するという視点からの論及も必要である。

校内研修の目的は、教員一人一人の指導力の向上にある。研究テーマで目指す姿の具現は手段であって、校内研修は研究テーマの実現が至上命令ではない。あくまでも校内研修は、一人一人の内発的な研修意欲を高め、研修すること自体が喜びとなるように企画・運営し、その結果として一人一人に指導力が身につく、満足感がもてるように推進していくことが大切である。

今後、研究テーマの共通理解については、全員で話し合ったかどうかという手続き上の問題として論ずる以上に、個々人にどのように受けとめられているのかという共通理解の質的レベルの面から考えることが大切である。

(2) 授業研究について

【設問14と設問16について】  授業者の授業構想を尊重して進めたい
授業研究

② 授業研究にあまり満足していない教員はどんな改善を求めているか。

設問14 (満足度) \ 設問16 (改善点)	かなり満足している	あまり満足していない
授業者の考えで自由に授業ができるようにする	10%	11%
授業者の考えを尊重して指導案検討をする	7%	19%
外部講師を招き多面的に考え合う授業分析会にする	23%	8%
全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする	20%	22%


註) 設問14：あなたは、あなたの学校の授業研究について満足していますか。

設問16：あなたの学校の授業研究について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることは何ですか。

授業研究に「かなり満足している」教員と、「あまり満足していない」教員のあげる改善点を比べたとき、大きく違うのは12ポイント差の「授業者の考えを尊重して指導案検討をする」と、15ポイント差の「外部講師を招き多面的に考え合う授業分析会にする」である。

「あまり満足していない」教員は、外部講師を招いて質の高い授業分析会にすることよりも、授業者の授業構想を尊重して指導案検討することを強く求めている。指導案検討の段階でいろいろな注文が付き、結果として授業者の授業構想からどんどん離れていってしまうことへのいらだちを読み取ることができる。

もちろん、指導案を批判的に検討することは必要なことである。しかし、それは授業者の授業構想を全面的にくつがえすものであってはならない。「転ばぬ先の杖」も大切であるが、転んでみてわかること、つまり、実践を通して気づき、納得することも指導力の向上にとっては大切なことである。

【設問11と設問13】  あまり楽しくなくても積極的に取り組む授業研究

② 授業研究があまり楽しくない教員の取組は消極的か？

設問11（楽しさ） 設問13（参加態度）	かなり楽しい	あまり楽しくない
かなり積極的に参加している	92%	36%
少し積極的に参加している	8%	51%
あまり積極的に参加していない	0%	11%
ほとんど積極的に参加していない	0%	2%

註）設問11：あなたの学校の授業研究は楽しいですか。

設問13：あなたは、あなたの学校の授業研究に積極的に参加していますか。

楽しければ積極的に参加する、というのは自然ななりゆきである。「かなり楽しい」と回答した教員の参加態度が、それを物語っている。ところが、「あまり楽しくない」と回答した教員の36%が「かなり積極的に参加している」、51%が「少し積極的に参加している」と回答している。楽しくなければ自ずと消極的な取組になる、という常識的な判断と食い違う結果である。授業研究の楽しさと参加態度の間には、相関関係がないことを示している。

また、このデータは、どの教員も授業研究が楽しいか否かに関係なくその重要性を理解し、指導力の向上を目指して積極的に取り組んでいることを示している。ひたむきに授業研究に立ち向かう教員の姿を読み取ることができる。

同様のことが、下の表からも読み取ることができる。「あまり楽しくない」と回答した教員の75%が、授業研究の有用性について肯定的に評価をしている。授業研究の楽しさと有用性の間にも相関関係がないことを示している。

設問11（楽しさ） 設問12（有用性）	かなり楽しい	あまり楽しくない
かなり役に立っている	92%	11%
少し役に立っている	8%	64%
あまり役に立っていない	0%	24%
ほとんど役に立っていない	0%	0%

註）設問12：あなたの学校の授業研究は、あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか。

【設問14と設問3について】  校内研修の満足度を左右する授業研究

② 授業研究の満足度は校内研修の満足度に影響を与えるか。

設問14（授業研究） 設問3（校内研修）	少し満足している	あまり満足していない
かなり満足している	13%	5%
少し満足している	78%	38%
あまり満足していない	7%	51%
ほとんど満足していない	0%	3%

註) 設問14：あなたは、あなたの学校の授業研究に満足していますか。


設問3：あなたは、あなたの学校の校内研修に満足していますか。

授業研究に「少し満足している」と回答した教員の内訳を見ると、校内研修の満足度は「かなり満足している」が13%、「少し満足している」が78%であり、「満足している」という肯定的な回答は91%にも及ぶ。これに対して、「あまり満足していない」と回答した教員は、「満足している」という肯定的な回答が43%、「満足していない」という否定的な回答が54%であり、過半数を超える。

このデータは、授業研究に対する満足度は校内研修の満足度に大きく影響することを示している。校内研修が授業研究を中核にして進められている現状から考えると、ごく自然な結果であるが、それだけに校内研修全体の満足度を高めるためには、授業研究の満足度を高めることが決め手になることを物語っている。

授業研究を改善することによって、校内研修全体を変える。この意気込みで授業研究の改善に取り組むことが必要である。

ところで、授業研究に「あまり満足していない」と回答した教員の43%が、校内研修に「満足している」という肯定的な回答をしている。このデータからわかるように、授業研究には満足しなくても校内研修には満足している教員がかなりいる。校内研修は、授業研究だけに限らずさまざまな分野の研修が組み込まれているが、そうした研修が肯定的に評価されていることを示している。校内研修の満足度を高める上でも、多様な研修内容を組み入れることが求められる。

【設問15と設問19について】  自己研鑽と自助努力を必要とする授業研究

② 授業研究を負担に感じている教員は研究授業をすることに対してどんなイメージをもっているか。

設問15 (負担感) \ 設問19 (いやなこと)	負担になっている	負担になっていない
指導案や教材づくりで等で忙しかった	33%	3%
言い分を聞かず授業分析が進められた	15%	46%
指導案が書けなかった	10%	3%
指導案の書き直しをさせられた	6%	2%

註) 設問15：あなたの学校の授業研究は、あなたにとって負担になっていますか。
 設問19：あなたが研究授業をしたとき、一番いやだったことは何ですか。

授業研究に対するイメージは、授業研究が負担になっている教員と負担になってない教員とはかなり異なっている。「負担になっている」と回答した教員は、「忙しい」が33%、「指導案が書けない」が10%であり、合わせると43%にもなる。これに対して「負担になっていない」と回答した教員は、「忙しい」が3%、「指導案が書けない」が3%であり、合わせてもわずか6%に過ぎない。

研究授業の負担感の要因は、指導案を書いたり教材準備をしたりすることの他にもいろいろ考えられるが、このデータは、少なくとも研究授業に至るまでの仕事が能率よくできるかどうか負担感の感じ方に影響を与えることを示している。

指導案を書いたり教材を準備したりするのは、授業研究の一連の過程の入り口部分である。その入り口部分で疲労こんぱいしているようでは、授業研究を通して指導力の向上を図ることなど期待できない。

近年、授業研究をする際、きちんとした研究授業をするとなると指導案づくりや教材準備で忙しくなるという理由から、指導案を略案にする、日頃の授業とそう変わらない準備で研究授業に臨む学校が増えている。教員の実態に合わせた取組とも言えるが、こうした負担の軽減だけを重視した授業研究をしても指導力は向上しない。

一人一人の教員には、教えるプロとして授業構想を指導案の形に具体化し、必要な教材を準備をし、実践を通して自らの授業の問題点を改善していこうとする自助努力と、それを可能にする自己研鑽が求められる。

IV章 校内研修への提言

- ◇ Ⅲ章「調査結果の考察」を基にした校内研修の改善についての提言である。自校の実態に即して検討し、参考にしていただきたい。
- ◇ 提言内容は、学校規模や教員の実態に関係なく共通に検討していただきたい事柄である。
- ◇ 校内研修の在り方については、所報「新潟教育研究」において論説「校内研修再考」と題して6回の連載でも取り上げている。併せて参考にしていただければ幸いである。

Ⅳ章 校内研修への提言

1 校内研修全般について

(1) 4月中に研修計画を立案する

- ◇教育ビジョンに基づき、どのような研修が必要なのか十分に検討し、推進日程を明確にした研修計画を立てる。
 - 研修内容、実施日、担当者を明示する。授業研究を組み入れるときは、授業者・研究授業日・職員の参加形態について明示する。
 - 指導案の検討日等は、月の教育計画立案の段階で調整する。
 - 外部の人材を活用する場合は、事前に内諾を得ておく。

〔提言の趣旨〕

- 研修計画の立案というと、とかく「研究テーマの趣旨」や「研究テーマの設定理由」など研究の全体的なフレームに関することが中心になりやすい。もちろんそれも重要な検討事項であるが、肝心なのは研修の具体的なスケジュールである。研修日程を明確にした研修計画であれば互いに見通しがもて、十分な準備のもとに企画・運営される充実した研修会になる。
- ある時期に研修が集中するようになるのは、研修のスタートが遅いからである。遅くとも4月末までに研修計画を立て、5月からはそれに従って研修を始める。

〔留意点〕

- 研究テーマや研究の重点を設定する際、無理して前年度の研究内容より高いレベルを求めたり、必然性のないまま「流行」を取り入れたりする傾向が見られる。校内研修の推進にあたっては、子どもの実態と教師の実態を最優先することが必要である。いたずらに研究の発展や「流行」を追いかけることは慎みたいものである。
- 4月中に研修計画を作成するには、年度末に校内研修の反省・評価をきちんとしておくことが必要である。これが曖昧になっていると、研修計画の作成に手間がかかり、4月中の完了は難しくなる。

(2) 多様な実技研修を組み込む

◇ 日々の教育活動の充実を図るため、教科指導や生徒指導等における基本的事項に関する実技研修を積極的に取り入れる。

○教科指導にかかわる内容としては、新出漢字の指導、計算力の指導などの教科固有のものと、家庭学習のさせ方、ノート指導などの教科共通のものがある。生徒指導にかかわる内容としてはエンカウンター、カウンセリングの進め方などがある。

○校内の人材活用では充実した研修が期待できない場合には、積極的に外部の人材（その道のプロ）を活用する。（註）

〔提言の趣旨〕

○教科指導や生徒指導等の基本的事項にかかわる内容については、個人の研修に任されていることが多い。しかし、一人一人の教員の指導力の底上げを図ったり、学校全体の教科指導や生徒指導のレベルを上げたりするには、基本的事項にかかわる研修を意図的に組み込むことが必要である。

○校内研修は、授業研究を中核にしながらも、教員一人一人の指導力を総合的に高めるように推進することが大切である。

〔留意点〕

○実技研修として実施した方がよい内容は、日頃あまり話題にならないが個々の教員が戸惑ったり悩んだりしている内容や、学校として共通の指導方針のもとに徹底したい内容である。教科部や学年部等でまとめたり、アンケート調査をしたりするのも一つの方法である。

○実施時期についてはより適切な時期に設定する。例えば、家庭学習のさせ方やノート指導などは年度当初、または年度末に実施し、指導上必要な事前指導や準備ができるようにする。

註) 当教育研究所の「教育アドバイザー派遣事業」の活用も一つの方法です。学校または個人の要請によって、教育アドバイザーリスト（vol.1, vol.2）に登録されている方を派遣します。派遣に伴う経費は当教育研究所が負担します。なお、教育アドバイザーは、その道のプロである大学教員や退職教員です。

(3) 研修の進め方を工夫する

◇ 研修内容の特質や教員の実態に応じて研修の進め方を工夫し、研修の実が上がるようにする。

- 研修内容に応じてグループに分かれた研修，ワークショップ形式の研修，ブレインストーミングやKJ法を取り入れた研修など，多様な方法を取り入れ，互いに知恵を出し合う校内研修にする。
- 互いの持ち味や特性を生かし合いながら研修できるように校内の人材を積極的に活用する。校内の人材活用では充実した研修が期待できない場合には，外部の人材（その道のプロ）を活用する。

〔提言の趣旨〕

- 研修内容の特質に応じて研修方法を変えることが大切である。たとえば，学習指導要領の理解を深める研修のように，講義形式で一斉に研修することが効果的な場合もある。また，次年度の校内研修の構想を練る研修のように，ブレインストーミングの手法を取り入れて小グループで研修することが効果的な場合もある。研修内容に応じた進め方をしなければ効果は上がらない。
- 教員の年齢構成などに応じて研修方法を変えることが大切である。小グループでの研修が効果的であるからといっても，グループ内の話し合いをリードできる教員が少ない場合には，小グループでの研修は必ずしもよいとは言えない。
- 校内研修を活性化するには，教員一人一人の校内研修へのかかわりを強めることが大切である。そのためには，より多くの教員に校内研修の推進者として活躍できる場を用意し，役割の自覚を促すと共に校内研修の推進に責任をもって臨めるようにする。

〔留意点〕

- 個々の研修会の研修時間や回数，研修の進め方が適切であったのか全面的に見直し，運営方法を具体的に改善していく。はじめの挨拶や講師紹介等は短くして実質本位に運営していく。
- 学校が独自に企画した研修とその他の研修（教育委員会主催・学校間連携の企画）等の重複をなくし，独自性のある校内研修にしていく。
- 個人研修の成果が校内で共有されていない現状にある。短時間でよいが，教員が教育センター等で研修したことを紹介する研修会も積極的に実施する。

2 授業研究について

(1) 累積的に課題を設定する

◇ 1 回ごとの授業研究では、授業研究の課題をできるだけ具体的に絞り込んで焦点づいた授業分析ができるようにし、その授業分析で明らかになった成果と課題を基に次の研究課題を設定する。

- 共通の研究テーマに基づく授業研究の場合は、これまで行ってきた授業研究の成果と課題を一覧表に整理し、それを基に次回の授業研究の課題を設定する。
- 授業研究の課題に関して、事前に全員で考え合うことと授業者に委ねることを明確にし、授業者に過重な負担がかからないようにする。
- 個人の研究テーマに基づく授業研究では、授業者が考える授業研究の課題の内容や意図、取組の現状についてよく話を聞き、共通理解の基に授業研究を実施する。

〔提言の趣旨〕

- 学年や教科が異なるだけで、いつも同じような協議題の基に授業分析をしている学校を見かけることがある。授業分析がマンネリ化している授業研究では研究の進展もなく、教員一人一人の指導力の向上も望めない。授業者にとっても参観者にとっても明確な研究課題の基に、鋭角的な授業分析をしない限り、日々の授業改善に役立つ成果は期待できない。
- 授業研究の課題は具体的で、かつ共有されていることが必要である。研究授業のどこを、どんな視点で検討するのか曖昧な授業研究は、個人の感想や思いつきを述べ合うだけで終わってしまう。授業研究の成果を上げるには、確実に研究の積み上げを図ることが必要である。

〔留意点〕

- 研究の成果は授業研究の実施回数で推しはかることはできないが、学校全体で年2～3回程度、または、個人として2～3年に1回程度の授業研究では指導力の向上など望めない。
- 授業研究の成果が全校に広がっていない傾向が見られる。日々の授業改善のために授業研究をしているという原点に立ち返り、授業研究の成果を取り入れて自分の授業を改善していく努力が大切である。

(2) トライ&エラーを基本に据える

- ◇ 研究の進展にはトライ&エラーがつきものであることを踏まえ、授業者は授業の仮説（授業展開のアイデア）を思い切って主張し、参観者はそれを批判的に検討しながら必要に応じて対案を提示し、授業の仮説や対案の妥当性を「授業の事実」を基に検証していく。
- 授業者は、授業の仮説の意図、内容について十分に説明し、どんな小さな授業の仮説であっても堂々と主張する。「対案」が提示されたときは理由を十分に聞き、納得できる場合は素直に受け入れる。
- 参観者は、批判的に検討をする際、授業の仮説そのものに内在する問題点なのか、それとも手立てを工夫すればよい問題点なのかを見極める。「対案」を提示しても、後は授業者の主体的な判断に任せる。
- 授業構想について意見の違いがあっても無理して1つにまとめようとしないで、後日、「授業の事実」に基づいてその適否を判断していくという「ゆとり」と「厳しさ」をもつ。

〔提言の趣旨〕

- 授業研究においては、事の是非はすべて「授業の事実」で決まるというゆとりある態度と厳しい態度をもつことが必要である。「ゆとり」がないと、指導案の検討段階で授業構想の是非を無理やり判断してしまい、指導案の全面書き換えを強要するようになる。「厳しさ」がないと、感想レベルの授業分析で終わってしまう。「授業の事実」がすべてであるという「ゆとり」と「厳しさ」をもつことによってはじめ、共同研究としての授業研究になっていく。
- 授業研究は実践研究であり、トライ&エラーを繰り返しながら目指す授業を具現したり有効な手立てを開発したりする営みである。失敗を恐れてありきたりの授業で満足しているようでは、授業研究をする意味がない。慎重に検討しながらも、大胆な挑戦がなければ授業研究をする意味がない。

〔留意点〕

- 授業研究も同僚性に基づく研修の一つである。授業について語るときは、立場や年齢に関係なく対等に話し合う。
- ハラハラ、ドキドキしながら研究授業を参観したいものである。そのためには、参観者も授業者も共に指導案検討における自分の発言に責任をもつことが大切である。

(3) 全員が授業評価について語る

◇ 全員が自らの授業評価について語り、その重なりやズレを手がかりに話し合うことを通してより確かな授業評価に練り上げたり、授業の知見を広げたりする。

- 互いに自分の授業評価を伝え合う。伝え方は自分の評価カードを見せたり、口頭で述べたり、挙手やネームプレートを使って意思表示したりする等いろいろな方法がある。
- 一斉形態での授業分析だけでなく、グループに分かれて授業分析をしたり、ワークショップ方式による授業分析をしたりし、参加型の授業分析会にする。
- 協議題以外に授業を見て触発された事柄についても話し合う時間を設け、授業について多様な視点から考え、学ぶことができるようにする。

〔提言の趣旨〕

- 「授業の事実」に基づいて授業評価をする。これが授業分析会の意義であるが、その他にもう1つ大きな意義がある。それは、授業評価について話し合うことを通して、授業の見方・考え方を学んだり鍛え合ったりするという教師修行の場であるということである。したがって、授業分析会では参加者全員が自らの授業評価について語り、相互に批正し合うことが大切である。
- あらかじめ設定された協議題に従って一斉形態で話し合う。これが一般的な授業分析会の進め方である。ところが、このやり方には2つの問題点がある。1つは、一斉形態の話し合いでは密度の濃い話し合いができないことである。2つは、協議題に該当しない事柄について話し合うことができないことである。授業を参観して触発された事柄の中に、新たな研究の視点や着想が潜んでいることが意外に多くある。

〔留意点〕

- 事前に協議題を設定した授業分析が基本であるが、時には互いの授業評価を重ね合わせ、最も関心が高かった事柄を協議の中心に据えるのも授業分析の1つの方法である。
- グループに分かれて協議する授業分析会では、「時間を区切ること」と「全体への報告を要領よくすること」が大切である。

V 章 資 料

- ◇すべての設問は、選択肢の中から1つを選択する単数回答方式である。
- ◇現勤務校の校内研修についての調査なので、設問によっては「この4月、転入したばかりで何ともいえない」の選択肢を用意した。
- ◇アンケート調査用紙及び回答用紙は、自由にコピーして使ってもかまわない。

V 章 資 料

1 校内研修についてのアンケート調査用紙

回答にあたってのお願い

選択しにくい場合もあるかもしれませんが、各設問ともあなたの考えや気持ちに一番近いものを1つ選び、別紙の回答用紙の記号に○を付けてください。

なお、「その他」に○を付けた場合は、()の中に選んだ理由を簡単に書いてください。

0 あなたの「年代」と「性別」についてお聞きします。

- ① あなたの年代は？ ア 20代, イ 30代, ウ 40代, エ 50代
② あなたの性別は？ ア 男性, イ 女性

I 校内研修全般についてお聞きします。

校内研修とは…授業研究だけではなく、絵画や書写などの実技研修、特別支援教育研修、情報教育研修など、各学校において実施されるすべての研修のことです。

1 あなたの学校の校内研修は、あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

- ア かなり役立っている
イ 少し役立っている
ウ あまり役立っていない
エ ほとんど役立っていない
オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

- 2 あなたは、あなたの学校の校内研修に積極的に参加していますか？
- ア かなり積極的に参加している
 - イ 少し積極的に参加している
 - ウ あまり積極的に参加していない
 - エ ほとんど積極的に参加していない
 - オ この4月、転入したばかりで何ともいえない
- 3 あなたは、あなたの学校の校内研修について満足していますか？
- ア かなり満足している
 - イ 少し満足している
 - ウ あまり満足していない
 - エ ほとんど満足していない
 - オ この4月、転入したばかりで何ともいえない
- 4 あなたの学校の校内研修の内容や進め方は、あなたにとって負担になっていますか？
- ア かなり負担になっている
 - イ 少し負担になっている
 - ウ あまり負担になっていない
 - エ ほとんど負担になっていない
 - オ この4月、転入したばかりで何ともいえない
- 5 あなたの学校の校内研修の内容について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？
- ア 研修する内容が多すぎるのもっと精選する
 - イ 研修する内容が限られているのもっと広げる
 - ウ 日々の実践に役立つ内容をもっと取り上げる
 - エ 今日的な教育課題の解決に役立つ内容をもっと取り上げる
 - オ 実技研修をもっと多くする
 - カ 職員の意見や要望を積極的に取り入れる
 - キ 改善すべきことはない
 - ク この4月、転入したばかりで何ともいえない
 - ケ その他 ()

- 6 あなたの学校の校内研修の進め方について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？
- ア 研修の回数や時間を多くする
 - イ 研修の回数や時間を少なくする
 - ウ 外部講師を招聘して研修するようになる
 - エ 一人一人の持ち味を生かし職員が講師になって研修するようになる
 - オ ある時期に校内研修が集中しないようにする
 - カ ある時期に校内研修を集中させる
 - キ 職員間で厳しく研修し合うようになる
 - ク 職員間で楽しく研修するようになる
 - ケ 改善すべきことはない
 - コ この4月、転入したばかりで何ともいえない
 - サ その他（ ）
- 7 あなたの学校の校内研修の重点（研究テーマ）について、あなたは納得していますか？
- ア かなり納得している
 - イ 少し納得している
 - ウ あまり納得していない
 - エ ほとんど納得していない
 - オ 理解していないので何ともいえない
- 8 あなたの学校の保護者は、あなたを含め教員が自らの指導力を向上させるために校内で勉強会（校内研修会）を開いて研修していることを知っていますか？
- ア かなり知っている
 - イ 少し知っている
 - ウ あまり知らない
 - エ ほとんど知らない
 - オ この4月、転入したばかりで何ともいえない
- 9 校内研修で取り上げる内容は多種多様です。あなたは校内研修の一つとして授業研究を取り入れることについてどう思いますか？
- ア 授業力を伸ばす上でかなり有益である
 - イ 授業力を伸ばす上で少し有益である
 - ウ 授業力を伸ばす上であまり有益ではない
 - エ 授業力を伸ばす上でほとんど有益ではない

10 多くの学校で授業研究を通した校内研修が行われています。あなたは校内研修における授業研究の位置づけ方についてどう思いますか？

- ア 授業研究を中核にして校内研修を進める方がよい
- イ 授業研究と他の内容とバランスを取りながら校内研修を進める方がよい
- ウ 授業研究は少なくし他の内容を中核にして校内研修を進める方がよい
- エ 授業研究はなくし他の内容のみで校内研修を進める方がよい

II 授業研究についてお聞きします。

(あなたの学校で授業研究をしていない場合は、回答の必要はありません。)

授業研究とは…指導案検討－研究授業－授業分析のサイクルで行う研修のことですが、その一部を省略して実施する場合も含まれます。

11 あなたの学校の授業研究は楽しいですか？

- ア かなり楽しい
- イ 少し楽しい
- ウ あまり楽しくない
- エ ほとんど楽しくない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

12 あなたの学校の授業研究は、あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

- ア かなり役立っている
- イ 少し役立っている
- ウ あまり役立っていない
- エ ほとんど役立っていない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

13 あなたは、あなたの学校の授業研究に積極的に参加していますか？

- ア かなり積極的に参加している
- イ 少し積極的に参加している
- ウ あまり積極的に参加していない
- エ ほとんど積極的に参加していない
- オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

- 14 あなたは、あなたの学校の授業研究について満足していますか？
- ア かなり満足している
 - イ 少し満足している
 - ウ あまり満足していない
 - エ ほとんど満足していない
 - オ この4月、転入したばかりで何ともいえない
- 15 あなたの学校の授業研究は、あなたにとって負担になっていますか？
- ア かなり負担になっている
 - イ 少し負担になっている
 - ウ あまり負担になっていない
 - エ ほとんど負担になっていない
 - オ この4月、転入したばかりで何ともいえない
- 16 あなたの学校の授業研究について、あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？
- ア 研究テーマにしばられず授業者の考えで自由に授業ができるようにする
 - イ 授業者の考えを尊重して指導案の検討をする
 - ウ 授業者任せにしないで全員で指導案づくりをする
 - エ 授業を批判し合うだけの授業分析会をなくす
 - オ 感想を述べ合うだけの授業分析会をなくす
 - カ 外部講師を招き授業について多面的に考え合う授業分析会にする
 - キ 全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする
 - ク 授業研究にもっと真剣に取り組むようにする
 - ケ 改善すべきことはない
 - コ その他（ ）
- 17 あなたの学校の授業研究では、「板書の仕方」や「ノート指導」等の教育技術について話し合われますか？
- ア かなり話し合われる
 - イ 少し話し合われる
 - ウ あまり話し合われない
 - エ ほとんど話し合われない
 - オ この4月、転入したばかりで何ともいえない

18 あなたの学校では、授業研究のために作成した指導案や使用したワークシート等が次年度以降活用できるように学校として整理・保存されていますか？

- ア 整理・保存されている
- イ 整理・保存されていない
- ウ この4月、転入したばかりで何ともいえない

19 あなたが研究授業をしたとき、一番いやだったことはどんなことですか？

- ア 授業のよい所にはあまり触れず悪い所だけを厳しく指摘された
- イ 指導案検討のときは何も言わないでいて授業分析会でいろいろ批判された
- ウ 何回も指導案の書き直しをさせられた
- エ 授業の問題点の指摘だけで改善策が示されなかった
- オ 授業中のちょっとしたミスを仰々しく指摘された
- カ せっかく授業をしてもあまり意見が出なかった
- キ 指導案づくり・教材準備などでとても忙しかった
- ク 指導案がなかなか書けず困った
- ケ 授業研究がマンネリ化していて本気で研究授業に取り組んでも得るものがない
- コ 授業者のいい分を聞くことなく一方的に授業分析が進められた
- サ いやだったことはあまりない
- シ まだ研究授業をしたことがない
- ス その他（ ）

20 あなたが研究授業をしたとき、一番うれしかったことはどんなことですか？

- ア 研究授業をするまでの努力や授業のよい所を認めてもらい励みになった
- イ 指導案づくりで困っているとき、親身になって手伝いや助言をしてもらった
- ウ 子どもが普段の授業以上によく動き、思い通りの授業ができた
- エ 研究授業を通して自分の指導力を高めることができた
- オ 研究授業をきっかけにして子どもが伸びた
- カ うれしかったことはあまりない
- キ まだ研究授業をしたことがない
- ク その他（ ）

2 回答用紙

アンケート調査回答用紙

設 問	回 答 の 記 号 (各設問とも○は1つだけ)
0	① ア イ ウ エ
	② ア イ
I	1 ア イ ウ エ オ
	2 ア イ ウ エ オ
	3 ア イ ウ エ オ
	4 ア イ ウ エ オ
	5 ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ ()
	6 ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ サ ()
	7 ア イ ウ エ オ
	8 ア イ ウ エ オ
	9 ア イ ウ エ
	10 ア イ ウ エ
II	11 ア イ ウ エ オ
	12 ア イ ウ エ オ
	13 ア イ ウ エ オ
	14 ア イ ウ エ オ
	15 ア イ ウ エ オ
	16 ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ ()
	17 ア イ ウ エ オ
	18 ア イ ウ
	19 ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ サ シ ス ()
	20 ア イ ウ エ オ カ キ ク ()